



# 杉並区立子供園 育成プログラム



## 「杉並区立子供園育成プログラム」改定にあたって

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。幼児と保育者との深い信頼関係に基づく関わりや安定した情緒の下で、一人ひとりの幼児が、将来にわたって、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにするための基礎を培うことが大切です。

杉並区教育委員会では、本区の目指す教育を実現するための指針である「杉並区教育ビジョン2012」の実現に向けて、生涯にわたり、誰もが共に学び合い、そして支え合って、明日の杉並を創り出せるよう、人々が世代を超えて共感し響き合える「共に学び共に支え共に創る杉並の教育」を目指しています。「杉並区就学前教育振興指針(平成24年11月)」、及び「杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム(平成26年2月)」では、子どもの成長と学びの切れ目のない支援に向けて、学びの連続性やつながりを重視する観点から、就学前教育の一層の充実と幼保小連携教育の推進に取り組んでいます。また、平成22年2月に、区立子供園における教育・保育を実施する上での指針となる「杉並区立子供園育成プログラム」を策定し、よりよい教育・保育の充実に努めてまいりました。

この間、「杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム」等に基づく子供園の実践に加え、各園における教育・保育の質の向上や、発達障害児等への教育的支援の拡充など、更なる内容の充実を図ることが一層求められるようになりました。また、平成30年度から実施される新しい幼稚園教育要領、及び保育所保育指針では、新たに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明記されるなど、幼児期にふさわしい生活をどのように展開し、どのような資質・能力を育むのかという視点で、内容の改定が図られました。これらの状況変化を踏まえ、「杉並区立子供園育成プログラム」を改定することになりました。

各園におきましては、「杉並区立子供園育成プログラム」が十分に活用されるとともに、それぞれの特色を生かしながら、よりよい教育・保育を創造していただきますようお願いいたします。そして、杉並区全体の幼児教育の質の向上を目指し、杉並区の未来を担う子どもたちが、たくましく豊かに育っていくことを願っています。

平成30年1月

杉並区教育委員会



## 目次

杉並区立子供園育成プログラム改定にあたって	1
第1章 育成プログラムの考え方	3
第2章 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	4
第3章 区立子供園の教育・保育	6
①子供園の一日	
②保育の充実のための子供園の体制	
③子供園の主な行事	8
第4章 年間指導計画例	9
年間指導計画例の項目・年間指導計画例の見方	
3歳児Ⅰ期(4月～5月)	10
3歳児Ⅱ期(6月～7月)	12
3・4・5歳児夏季休業中(7月下旬～8月)	14
3歳児Ⅲ期(9月～10月)	16
3歳児Ⅳ期(11月～12月)	18
3歳児Ⅴ期(1月～3月)	20
4歳児Ⅰ期(4月～5月)	22
4歳児Ⅱ期(6月～7月)	24
4歳児Ⅲ期(9月～10月)	26
4歳児Ⅳ期(11月～12月)	28
4歳児Ⅴ期(1月～3月)	30
5歳児Ⅰ期(4月～5月)	32
5歳児Ⅱ期(6月～7月)	34
5歳児Ⅲ期(9月～10月)	36
5歳児Ⅳ期(11月～12月)	38
5歳児Ⅴ期(1月～3月)	40
幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の具体例	42
第5章 小学校教育との円滑な接続	44
第6章 特別な配慮を必要とする幼児への指導	45

### 用語の定義について

保育者…幼稚園教諭と保育士の総称

短時間保育児…「子ども・子育て支援制度」における1号認定

長時間保育児…「子ども・子育て支援制度」における2号認定

## 1 育成プログラム改定の趣旨

●杉並区では、平成22年度から平成25年度にかけて、従来の区立幼稚園を区立子供園へと発展的に転換し、保護者の就労形態に関わらず幼児を受け入れ、心身の発達に応じて教育及び保育を一体的に行う区独自の幼保一体化施設として、6園の杉並区立子供園(以下「子供園」という。)を設置・運営しています。

●幼稚園と保育園のそれぞれのもつ教育・保育の特性を生かし、一人ひとりの幼児を育成するための指針として、平成22年2月に「杉並区立子供園育成プログラム」(以下「育成プログラム」という。)を策定して、これを参考に、各子供園が年間指導計画等を作成しています。

●これまでの育成プログラムにつきましては、「杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム(平成26年2月)」等に基づく子供園の実践を踏まえながら、内容の充実を図り、各園で成果を共有してきました。

●「幼稚園教育要領」(文部科学省 平成29年3月告示)及び「保育所保育指針」(厚生労働省 平成29年3月告示)が改訂され、新たに「幼児教育において育みたい資質・能力」や「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明記され、幼児期にふさわしい生活をどのように展開し、どのような資質・能力を育むのかという視点で、内容の充実を図る必要があります。

これらの状況変化を踏まえ、環境を通して行う幼児教育を、より一層充実・発展させることを目的として、「杉並区立子供園育成プログラム」を改定することとします。

## 2 育成プログラムの位置付け等

●育成プログラムは、区立子供園における教育・保育を実施する上での指針であり、各子供園においては、育成プログラムに基づき、それぞれの特色を生かした年間指導計画等を作成し、幼児一人ひとりの特性に応じ、発達の課題に即した教育・保育をすることを基本とします。

●育成プログラムは、各子供園の取組等を踏まえて検証しながら、内容の充実を図っていきます。

子供園においては、「幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法に規定する目的及び目標を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。」という幼稚園教育の基本を踏まえ、次に掲げる資質・能力を一体的に育むよう努めるものとします。

幼児教育において育みたい資質・能力

- ①豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- ②気付いたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等の基礎」
- ③心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力、人間性等」

■幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼稚園教育要領及び保育所保育指針のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の子供園修了時の具体的な姿であり、保育者が指導を行う際に考慮するものです。



健康な心と体

子供園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出します。



自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動します。



協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げます。



道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動します。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりします。



社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気づき、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもちます。また、子供園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識します。



思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しみます。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気づき、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにします。



自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもちます。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気づき、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもちます。



数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもちます。



言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しみます。



豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気づき、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもちます。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより育まれ、特に、5歳児後半に見られるようになる姿です。5歳児だけでなく、3歳児、4歳児の時期から、幼児が発達していく方向を意識してそれぞれの時期に指導を積み重ねていくことが大切です。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要があります。

## 1 区立子供園の1日



### 遊びは幼児の学び

幼児が十分に体を動かし主体的に遊び込むことは、丈夫な体と豊かな心を養います。幼児が友達と遊ぶ中で様々な発見や不思議を経験し、多様な見方や考え方を取り入れ、ときには葛藤しながら仲間と共通の目的を見出そうとする過程を経験することは、幼児期の重要な学びとなります。



### 子供園の短時間保育と長時間保育

#### ■短時間保育

月曜日から金曜日の  
8時50分から4・5歳児は14時、  
3歳児は13時30分まで  
(水曜日は月2回程度  
11時45分まで)



#### ■長時間保育

月曜日から土曜日の7時30分から18時30分の間で、  
保育を必要とする時間

※全員保育には短時間保育・長時間保育の全員が参加します。

### 食育 [昼食]

保育者や友達と一緒に和やかな雰囲気の中で食事を通して、誰かと共に食事をする喜びや食の大切さを感じるようになります。また、食事に必要な生活習慣(手洗い・うがい・挨拶・マナー・食具の持ち方)を身に付けていきます。

平成29年度以降に改築した子供園では自園調理給食を提供しますが、毎週水曜日はお弁当持参日としています。

他の子供園はお弁当持参です。保護者の希望で搬入弁当の提供がある子供園もあります。

お弁当は家庭と園をつなぐ役割もあり、子どもたちにとってほっと一息ついておうちのことを思い出すひと時にもなります。

### 食育 [栽培・調理]

園の畑やプランターで野菜の栽培に取り組み、生長の喜びを食の喜びにつなげています。普段は苦手な野菜でも、自分で育てることで「おいしい」と感じ、食べ物への興味・関心も高まります。



5歳児は収穫物を使って調理する機会をもち、調理する楽しさや、小さい組の幼児にごちそうする喜びを感じていきます。(カレーパーティ・おいしいもパーティ等)

## 2 保育の充実のための子供園の体制

### 教職員の連携

子供園では幼稚園教諭と保育士の二人が学級担任をしています。保育者はローテーションを組んで全員保育と朝夕保育の教育・保育の充実にあります。

子供園運営のために幼稚園教諭・保育士の学級担任の他に保育助手、看護師(2園兼務)、介助員、朝・夕・一時保育担当職員、用務・調理職員等、多様な職種・勤務体系の教職員が勤務しています。

園長の園経営方針の下、教職員が適切に役割を分担しつつ連携しながら教育課程等の共通理解と協力体制を築き、よりよい子供園を目指しています。

### 保育者の研究・研修

「保育をよりよいもの」にするために、日々の教育・保育の反省、評価・指導計画立案・教材研究、準備や研修参加・園内研究推進等を通して、保育者の専門性を高め、保育の充実を図ります。

### 杉並教育研究会 子供園部会

区立子供園・小・中学校が学びの連続性を重視して指導法の研究に取り組みます。6園の子供園保育者が協働して研究を進め、保育力の向上を図ります。

### 幼保小連携のための研究と保育公開

杉並区教育委員会教育課題研究指定園の研究発表や小学校教員を対象とした研修「幼児教育公開」を実施し、杉並区の就学前教育施設の保育の充実と、小学校教育との円滑な接続を図ります。

3 子供の園の主な行事

季節の伝統行事(端午の節句・七夕・正月・節分・桃の節句等)・運動的な行事・文化的な行事・儀式(入園式・始業式・終業式・修了式)や幼児の生活経験を広げるもの(遠足・小学校交流活動・地域の施設訪問等)を教育課程に位置付けて実施しています。行事の指導にあたっては、園生活の自然の流れの中で生活に変化や潤いを与え、幼児が主体的に楽しく活動できるようにし、日常生活では体験できないようなわくわくした特別な気持ちをもつことや、初めて体験する面白さに出会ったりすることを大切にしています。

月	行事
4	春季休業終 始業式 入園式 保護者会
5	親子で遊ぼう 5歳児遠足
6	プール指導始
7	保護者会 終業式 夏季休業始
8	夏季保育 夏季休業終
9	始業式 プール指導終
10	運動会
11	4・5歳児遠足
12	4・5歳児子ども会 終業式 冬季休業始
1	冬季休業終 始業式 個人面談
2	親子で遊ぼう 3歳児子ども会 小学校交流活動
3	保護者会 修了式 終業式 春季休業始

避難訓練・安全指導

年間を見通した計画を立てて毎月実施し、保育者の指導の下、幼児が落ち着いて危険を回避する行動がとれるように指導しています。

地域における子育て支援

地域の未就園児親子を対象に、幼児期の教育や生活に関する相談に応じた親子の遊び場を提供したりして、地域の子育てを支援しています。在園児の活動との関連性にも配慮した『未就園児親子の会』を各園で実施しています。

保護者会など

保護者会・懇談会・個人面談・保育参観・保育参加等を通して、保護者が子供園と共に幼児を育てる喜びを感じられるようにしています。降園時に話をしたり、園の様子を掲示したりして保護者と情報を共有し、連携を図ります。

親子で遊ぼう(保育参加)

保護者が園生活を一緒に過ごし、我が子が園でどのように過ごしているのかを見るとともに、我が子以外の幼児と触れ合ったり、保護者同士が交流したりします。

遠足

電車やバスに乗って動物園や水族館などの施設見学に出掛けます。遠足での学級の共有体験をその後の遊びに取り入れていきます。

長期休業(夏・冬・春)

短時間保育はお休みですが、長時間保育と一時保育は行います。8月下旬には全園児を対象に夏季保育を行い、生活リズムを取り戻したり、学級のみんなと過ごす楽しさを思い出したりしていきます。

運動会

幼児は日々の遊びを通して、運動する意欲や喜びを感じたり学級の一人として取り組む嬉しさを感じたりするようになります。運動会では幼児の心身の成長の様子を保護者や地域の方が参観します。

子ども会

幼児が絵本やお話の世界に親しみ、自分の経験と結び付けたり想像を巡らせたりしながら、学級のみんなと表現活動を楽しみます。幼児の取組の様子を保護者や地域の方が参観します。

幼児期の教育は、幼児が自ら意欲をもって環境と関わるによりつくり出される具体的な活動を通して、その目標の達成を図るものです。「育成プログラム10ページ」からの年齢別の年間指導計画例は区立子供の園の標準としての例示であり、各子供園で作成する指導計画のよりどころになるものとしてまとめました。

年間指導計画例の項目・年間指導計画例の見方

**左ページ**

幼児の発達の節目となる時期を「期」と捉え、その期ごとに「全員保育」の生活を中心に、ねらい・内容(学び・人とのかわり・生活)・環境の構成や援助のポイントをまとめました。長時間保育についても特記すべき内容等を記載しました。

幼児教育において育みたい資質・能力を幼児の生活する姿から捉えたもの。

**右ページ**

指導例は各期の特徴的な幼児の姿や環境の構成・援助のポイントを一つの実践例として紹介しています。

活動を連想させる幼児の言葉

経験している内容

「ねらい」を達成するために必要な体験として保育者が指導し、幼児が身に付けていくことが望まれる内容。「杉並区幼保小接続カリキュラム・連携プログラム」と整合を図り、視点や項目が日常の遊びや生活の中で絡み合いながら幼児が経験していくもの。

各時期の「ねらい」を目指して指導を進めるために、どのような経験を積み重ねるかを明確にし、そのための状況をものや人、場や時間、保育者の動きなどを関連付けた配慮事項。

各時期の保育や幼児の育ちを考える上で必要な家庭との連携について特に留意すべき事項。

学	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 自分の好きなものや場を見つけて遊ぶ。</li> <li>人 保育者に親しみをもつ。</li> <li>生 園生活の仕方が分かり、保育者と一緒に安心して過ごす。</li> </ul>
	思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味のある遊具、好きなものや場で遊ぶ楽しさを感じる。</li> <li>身近な植物や虫などの自然物に触れて楽しむ。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者の名前や学級の名前が分かる。</li> <li>保育者と挨拶をしたり、保育者に掛けられた言葉に答えようとする。</li> </ul>
学	創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>用意されている遊具や素材に関わり、使ってみようとする。</li> <li>身近にある遊具を使って見立てて遊ぶ。</li> </ul>
	協同	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者に親しみをもち、一緒にいることを心地よいと感じる。</li> <li>みんなでする活動があることが分かり、保育者と一緒に参加する。</li> </ul>
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者と触れ合ったり話をしたりして、安心感をもつ。</li> <li>保育者のしていることに興味をもち、一緒に同じことをしようとする。</li> </ul>
人	規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで過ごすために必要な約束があることが分かる。</li> </ul>
	自立した生活の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>所持品の始末、身支度などを保育者に手伝ってもらいながらしようとする。</li> <li>上履きを履くことやトイレの使い方などの園の生活の仕方が分かる。</li> </ul>
	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>園での食事の手順を知り、保育者と一緒に準備する。</li> <li>保育者や他の幼児と一緒に食事をするを楽しむ。</li> </ul>
生活	運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。</li> <li>保育者と一緒に戸外で遊ぶことを楽しむ。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 親しみのある遊具や絵本等は同じ物を複数用意しておき、「自分も使いたい」という幼児の思いに応じられるようにする。</li> <li>学 学級で集まる楽しさを感じられるように、簡単な手遊びや絵本、リズム遊びなどを選択する。</li> <li>人 幼児の名前を呼んだり、触れ合ったりして幼児が保育者に親しみを感じ、安心して過ごせるようにする。</li> <li>人 保護者から離れられない幼児には、個々に対応し、気持ちに寄り添いながら安定を図っていく。</li> <li>生 一日の園生活の流れが分かり、どの幼児も安心して過ごせるように毎日の流れを一定にする。</li> <li>生 生活習慣は個人差が大きいため、一人ひとりに応じて伝えながら、「自分でできる」喜びを感じられるようにする。活動の節目には手洗い・うがい・排泄等を促し、徐々に自分から行えるようにしていく。</li> </ul>
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者から積極的に保護者とのコミュニケーションを図り、子供園に対する保護者の思いを聞いたり、園での幼児の様子を伝えたりしながら信頼関係を築いていく。</li> <li>保護者会で規則正しい生活リズムの定着や生活習慣の自立の大切さに触れ、子育てを振り返る機会にする。</li> <li>スプーン・フォークの正しい持ち方や、箸を使って食事をする事の大切さについても園と家庭で共通理解する。</li> <li>排泄が自立していない幼児の保護者には、園での排泄の様子を伝えながら園と家庭で幼児に合わせてトイレトレーニングができるようにする。</li> <li>3歳児全員保育の降園時刻を2学期中旬まで13時とし、幼児が徐々に園生活に慣れて安心して過ごせるよう配慮していることを保護者に伝える。(11月から13時30分降園)</li> </ul>	

長時間保育	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>人 保育者と触れ合って遊ぶ。</li> <li>生 長時間保育の生活の仕方を知り、安心して過ごす。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 全員保育の遊具や環境とは異なる家庭的な環境を整え、ゆっくりとそれぞれのペースで遊びを楽しむようにする。</li> <li>人 保育者がいる安心感もてるように、どの幼児にも目を向け関わっていく。</li> <li>生 家庭と連絡を取り合いながら、一人ひとりの生活リズムや眠る時の様子を把握し、布団やコットの配置や午睡室の雰囲気などに配慮し、みんなが気持ちよく眠れるようにする。</li> <li>生 午睡に入る長時間保育児が不安にならないように、短時間保育児や迎えの保護者の動線に配慮する。</li> <li>生 ござ、イスとテーブルなどで、幼児が落ち着いて遊んだり過ごしたりできる場所を作る。</li> </ul>

おもしろそう! これしてみようかな **学** 用意されている遊具や素材に関わって楽しむ

学 入園当初には、幼児が自分の好きな遊びを見つけて少しでも安定できるように、家庭で見慣れた遊具(ままごと・積み木・電車・絵本等)を設定しておく。  
 学 環境が幼児の興味を誘発するように、保育室の遊具は「遊びかけ」の状態にしておく。  
 学 保育室のどこにどんなものがあるのか、幼児が一目で分かるよう配置し、2~3週間は環境の設定を変えないように配慮する。



コップや皿をままごとのテーブルの上に出し、料理を並べておく。



床上積み木を箱から少量出して並べたり積んだりしておく。



登園してきた幼児がテーブルの上で並んだ料理を見て手に取り、「ご飯を食べましょう!」と遊び始める。



置いてある積み木の続きにつなげるように幼児が積み木を置き、「長くなってきた!」「こっちにも!」と関わり始める。

学 新入園児は子供園の場になじみがなく、どうしてよいかかわからず、何もしようとしていないことがある。遊びかけの状態にしておくことで、日頃しているままごとや積み木の遊びをイメージし、スムーズに遊びの場に入っていくことができる。

学 壁面装飾が幼児の遊びのきっかけとなるよう、幼児の生活や興味に応じて設定する。

保育者が壁面に雨の装飾をし、傘をつくれる製作コーナーを設定する。保育者が傘をさすふりをして「傘をさす?」と幼児に聞くと幼児はすぐに傘をつくり、できた傘を持って壁面の下に行き、嬉しそうに傘をさす。



雨だ! 雨だ!



楽しそうな姿を見つけた幼児が「わたしも傘が欲しい!」とつくり始める。自分の傘ができるとうれしそうに傘を持って上下させたり部屋の中を歩き回ったりする。



大雨で一す!

一人が「雨で一す!」と言うと、同じ場にいた幼児が傘を持ち「雨で一す!」と言ったり並んで歩いたりして楽しむ。周囲の幼児が遊んでいる楽しい雰囲気に影響を受けながら自分も遊びに加わり、同じことをする嬉しさを感じる。

人 園に対する安心感は幼児の自発的な行動を促す。保育者から自発的な行動を共感され認められることで更に幼児の安心感は増していく。

子供園の生活(持ち物・全員保育終了時)



入園前に保護者にその子のマークを知らせる。個人用品などにも同じマークを付けてもらい、幼児が自分のものと分かるよう協力してもらう。ロッカーや靴箱にも同じマークとひらがな記名をしておき、自分から安心して身支度などができるようにする。個人マークは4歳児まで使用し、5歳児はひらがな記名に移行する。



全員保育が終わり、短時間保育児が降園するときに、長時間保育児が不安にならないよう環境を工夫し、「〇〇号出発!」などと安心して長時間保育へ移行できるようにする。

長時間保育児は保育者に見守られ、安心して午睡に入る。

短時間保育児は身支度をして、迎えに来た保護者と降園する。園庭開放を利用する親子もいる。

学	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 好きな遊びを見付け、自分なりに楽しむ。</li> <li>人 保育者や他の幼児と触れ合い、一緒に過ごす楽しさを感じる。</li> <li>生 園生活の仕方が分かり、身の回りのことを自分でしようとする。</li> </ul>
	思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>素材や遊具、つくったもので遊ぶ中で見立てる楽しさを感じる。</li> <li>興味のある遊具や素材に自分から関わり、繰り返し楽しむ。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者に自分の思いや困ったことなどを表情や動き、言葉で表そうとする。</li> <li>保育者と一緒に絵本や紙芝居を楽しむ。</li> </ul>
人	創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>水、砂、泥等の感触を楽しむ。</li> <li>自分でつくったものを身に付けたり、なりきって遊んだりすることを楽しむ。</li> </ul>
	協同	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者や学級のみなどと一緒に動くことを楽しむ。</li> <li>近くにいる保育者の様子を見たり、まねたりする。</li> </ul>
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを動きや表情で表わす。</li> <li>同じ場で遊ぶ幼児の存在を感じる。</li> </ul>
生	規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで過ごすために必要な約束や、遊具や用具の安全な使い方が分かる。</li> </ul>
	自立した生活の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>所持品の始末や排泄などの生活の仕方に慣れ、自分でしようとする。</li> <li>水遊びのための着替えの仕方が分かり、自分でしようとする。</li> </ul>
	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>スプーン・フォークや箸を使って自分で食べる。</li> </ul>
環境の構成・援助のポイント	運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者やみんなと一緒に、戸外で体を動かす楽しさや、水の中でいろいろな動きをする楽しさを感じる。</li> </ul>
	学 幼児が感じたこと、気付いたことを言葉や表情、動きで表現する姿や、様々な感情を肯定的に受け止め、幼児が自分から遊びを見付けて楽しめるようにしていく。	
	学 水遊びの指導では、保育者同士(担任・嘱託員・介助員など)が危機管理意識もって役割を分担し、連携して幼児の援助やプール管理にあたる。	
人 行動範囲が広がり、動きも大きくなる時期なので、その都度、安全な遊び方や遊具・用具の使い方について具体的に伝えながら、幼児自身が気付いて行動できるようにしていく。		
人 周囲の幼児や同じ遊具に触れている幼児の存在に気付けるよう、保育者が言葉を掛けたり、一緒に過ごす楽しさに共感したりすることで、人と関わる心地よさを感じられるようにしていく。		
生 水遊びを安全に楽しむための約束や、着替えや入水の手順を丁寧に知らせ、幼児が自分からしようとする姿を認める。		
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育参観や懇談会などで保護者同士が親しくなる機会を設け、子育てについて共に考えたり、保護者同士のつながりを広げたりする。</li> <li>水遊びや散歩などの新しい遊びや生活の様子を写真等を交えながら具体的に知らせることで、保護者の園生活への理解を図る。</li> </ul>	
長時間保育	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>人 好きな遊具や用具を使い、保育者や他の幼児と触れ合って遊ぶ楽しさを感じる。</li> <li>生 長時間保育の流れが分かり、安心して過ごす。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>人 少人数のゆったりした雰囲気の中で、自分の思いを出しながら過ごせるようにしていく。トラブルになったときには保育者が仲立ちし、お互いの気持ちを受け止めたり代弁したりしながら、気持ちを切り替えてまた遊び出せるようにしていく。</li> <li>生 全員保育の運動量や梅雨時の天候等により、一日の静と動のバランスを配慮した外遊びや室内遊びの環境を工夫していく。</li> <li>生 長時間保育の流れが分かって自分で行おうとする姿を認め、自信につなげていく。また、できないところは「手伝って欲しい」と意思表示できるよう促しながら援助していく。</li> </ul>

ドロドロ・ペチャペチャ おもしろい

学 好きな遊びを見付けて楽しむ 砂や水の感触や開放感を味わい、伸び伸びと遊ぶ

学 幼児が戸外の環境にも興味をもって関われるように、3歳児保育室の側に砂場を設定する。  
 学 一人ひとりが自分の楽しみ方ができるようにバケツ・シャベル・型抜きなどの遊具の数を十分に用意し、分類して置いておく。  
 学 保育者が幼児と同じように感覚や感触を楽しみ、関わることで、幼児の面白さを追求する意欲や自発性を育てていく。  
 人 抵抗感のある幼児も予想されるが、他の幼児の楽しさを見たり感じたりしながら、徐々に「わたしもやってみようかな」と思い、自分から遊び始める姿を大切に、認めるようにする。

幼児は周囲の幼児が遊ぶ楽しい雰囲気に影響を受け、更にドロドロ・ペチャペチャ・サラサラなどの感覚や感触を味わったり開放感を感じたりするようになる。また幼児は砂や水が変化する面白さから、次の行動のめあてをもって繰り返し楽しむようになる。



保育室の前にある砂や泥に触れ、「トロトロになった」「ぺちゃぺちゃだ」と感触を楽しみ始める。



「お水入れよう」「お水が消えた」「泡だ」と、砂にしみ込んでいく水や砂の上のできる茶色の泡など、いろいろなことに興味をもつ。



他の幼児の楽しそうな姿を見たり雰囲気を感ぜたりすることで、「わたしもやりたい」「ほくも!」と次々に幼児が参加する。「水を流してみよう」「ぺちゃぺちゃだ」と興味をもって動き始める。



砂場の側のいすと机の場で、砂をごちそうに見立てて遊び始める幼児もいる。「味噌汁よ」「サラダよ」とそれぞれが言葉に表す。

水遊びも楽しいな



生 遊んだ後の片付け方や足の洗い方、着替え方などを知らせ、自分でしようとする姿を認めていく。  
 生 片付けたり着替えたりするとききれいになって気持ちがいよいに共感し、また遊びたいと思えるような言葉を掛けていく。



「わーい!プールだ」天候により、戸外で水遊びができない日には、みんなで新聞紙をびりびりと破いて、水に見立て、保育室でプールごっこをすることも楽しい。



学 どの幼児も水遊びに喜んで参加できるように、たらいの水で遊んだり、保育者と一緒にビニールプールにつかたりしながら、いろいろな形で水遊びを経験できるようにする。  
 生 水に触れることで開放感を味わい、伸び伸びとした動きを引き出しながら、水遊びの楽しさに共感していく。



子供園の夏休み

1学期終業式から2学期始業式までは夏季休業日で、短時間保育は休みになりますが、長時間保育は行います。短時間保育児も長時間保育児も、家庭や園で夏ならではの経験ができるよう、いろいろな遊びや体験を紹介するための『なつやすみちょう』を各子供園で作成して、夏休みに入る前に配布します。

8月初旬には、幼児や保護者が子供園とのつながりを感じられるよう、子供園から暑中見舞いはがきを郵送しています。

8月中・下旬には全園児を対象にした4日間程度の夏季保育(午前保育)を実施し、園生活のリズムを取り戻したり、全員保育の生活や遊びを思い出したりして、2学期からの園生活の充実につなげています。生活の変化に戸惑いを見せることもありますが、夏季保育を経験することで、安心して2学期の生活を始めることができます。

**家庭との連携**

- 8月園だよりを配布し、規則正しい生活リズムの大切さや夏の過ごし方について伝える。また、『なつやすみちょう』を配布し、親子で楽しく遊ぶきっかけとなるようにする。
- 「自分でやりたい」という幼児の気持ちを家庭でも大切にできるよう、幼児が自分の身の回りの始末をしたり、家の手伝いをしたりできる方法を保護者に具体的に伝える。
- 子供園から暑中見舞いはがきを郵送し、親子が園とのつながりを感じたり、返事を書く楽しさを感じたりできるようにする。
- 長時間保育は夏季休業中の異年齢集団での生活の様子を写真等を交えながら具体的に知らせることで、保護者の理解を図る。
- 夏季保育の登園時には、久しぶりに全員保育に参加する幼児の様子を写真等を交えながら具体的に知らせることで、保護者の安心感や2学期への期待感につなげる。

長時間保育	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 自分で選んだ遊びを楽しむ。</li> <li>人 いろいろな友達との関わりの中で、自分の思いを表して遊ぶ。</li> <li>生 夏の生活の仕方が分かり、気持ちよく過ごす。</li> </ul>
	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 夏の自然に触れて遊んだり、プール遊びや水遊びをしたりして楽しむ。</li> <li>人 異年齢の幼児と一緒に遊んだり関わったりして楽しむ。</li> <li>生 身の回りのことやプールの支度、午睡の流れ、夏の過ごし方(汗をかいたら拭く・手洗いうがいを、水分補給等)が分かり、気持ちよく過ごす。</li> <li>人 夏休みが終わることを知り、短時間保育児が登園することを楽しみにする。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 1学期と同じように遊べるよう、遊具や用具などを用意する。</li> <li>学 夏の自然に興味・関心をもてるよう環境を整え、野菜や草花の変化や生長に気付き、水やりや収穫に喜んで取り組めるようにする。</li> <li>学 プール遊びや水遊びでは開放感を味わったり自分から挑戦したりする姿を認めていく。プールでの約束を少人数のよさを生かして指導し、身に付けさせていく。</li> <li>人 3・4・5歳児と一緒に過ごす場面を増やしなが、異年齢の集団で過ごす楽しさや関わって遊ぶ面白さを感じられるようにしていく。</li> <li>生 夏季休業中の生活の流れは一定にし、どの幼児も安心して過ごせるようにする。</li> <li>生 身の回りのことを自分で行おうとする姿を認め、自信につなげていく。特に3歳児は、できないことは「手伝って欲しい」ということを、誰に対しても意思表示できるよう促しながら援助していく。</li> <li>生 夏の暑さや水遊びの疲れを考慮して午睡や休息の時間を適切にとる。</li> <li>生 8月後半には、2学期が始まると短時間保育の友達が登園することを知らせ、保育室の場を整えたり楽しみにしたりできるようにする。</li> </ul>



3・4・5歳児と一緒に昼食

夏季休業中は長時間保育児だけの生活になるので3・4・5歳児と一緒に過ごす場や時間をもちやすい。異年齢の集団で生活や遊びを楽しむ中で、互いを意識し、自分もやってみようとする意欲につなげていく。



4・5歳児が虫探し

夏の植物や昆虫に興味をもって関われるよう、図鑑や虫めがね、水槽などを用意しておく。触れると危険な生き物や植物について保育者が知識をもち、幼児に知らせたり駆除したりする。

一緒に遊ぼう

学 園生活のリズムを取り戻し、大勢で遊ぶ楽しさを味わう

8月下旬に実施する夏季保育は、短時間保育児と長時間保育児が久しぶりに学級のみんなで過ごし、子供園の遊びや生活を思い出す機会となる。

- 学 1学期に親しんだ遊具や、夏ならではの遊びを中心に、いろいろな遊びの場を設定し、幼児が自分で選択して楽しめるようにする。(プール遊び・水遊び・自然との関わり)
- 人 保育者は、幼児が楽しむ姿を見守りながら、幼児同士のつながりや幼児と保育者との信頼関係を取り戻していく。
- 生 登園から降園までの生活の流れを、1学期の全員保育時間の流れと同じようにすることで、園生活のリズムを思い出し、2学期の園生活をスムーズに始められるようにする。

3歳

幼児が遊びを選択できる環境

小さいプール

水車

フィンガーペインティング

4歳

プール遊び

水鉄砲

野菜のスタンピング

5歳

プール遊び

色水遊び

虫探し

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 自分のしたい遊びを見付け、保育者や他の幼児と楽しむ。</li> <li>人 保育者や他の幼児がしていることに興味をもち、自分から関わろうとする。</li> <li>生 保育者や他の幼児と一緒に体を動かす心地よさを味わう。</li> </ul>
学び	<b>学</b> 思考 <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な自然に触れたり、遊びに取り入れたりする。</li> <li>近くにいる幼児がしていることに興味をもつ。</li> </ul>
	<b>学</b> 言葉 <ul style="list-style-type: none"> <li>体験したこと、感じたこと、思ったことを保育者や他の幼児に伝えようとする。</li> <li>リズムを感じながら言葉を言うことを楽しむ。</li> </ul>
	<b>学</b> 創造 <ul style="list-style-type: none"> <li>身近な素材を使って、かいたりつくったりして表現する楽しさを感じる。</li> </ul>
人のかかわり	<b>人</b> 協同 <ul style="list-style-type: none"> <li>他の幼児と同じものを持ったり身に付けたりすることを喜ぶ。</li> <li>保育者や近くにいる幼児と一緒に体操をしたり踊ったりする。</li> </ul>
	<b>人</b> 信頼 <ul style="list-style-type: none"> <li>一緒にいたい幼児ができ、自分から関わっていく。</li> <li>他の幼児や保育者に自分の思いを表そうとする。</li> </ul>
	<b>人</b> 規範 <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単なルールが分かり、みんなで一緒に遊ぶことを楽しむ。</li> <li>自分の物、他の人の物、共同で使う物の違いが分かる。</li> </ul>
生活	<b>生</b> 自立した生活の基礎 <ul style="list-style-type: none"> <li>汗をかいたら拭いたり着替えたりして気持ちよく過ごす。</li> <li>保育者と一緒に自分の遊んだ遊具や用具、場を片付けようとする。</li> </ul>
	<b>生</b> 食育 <ul style="list-style-type: none"> <li>保育者や他の幼児と一緒に楽しく食事をする。</li> <li>スプーン・フォークを正しく持ったり、箸を使ったりする。</li> </ul>
	<b>生</b> 運動 <ul style="list-style-type: none"> <li>保育者や他の幼児と一緒に、体を十分に動かして遊ぶ楽しさを感じる。</li> <li>走ることや軽快なリズムの音楽に乗って動くことを楽しむ。</li> </ul>
環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 2学期の始まりには1学期末と同じような保育室、園庭の環境を設定し、安心して自分の遊びを見付けたり、他の幼児の動きに関心をもったりできるようにする。</li> <li>学 戸外の活動や散歩を計画し、秋の季節を感じられるようにする。落ち葉や実を集めて入れるための袋や分類する箱などを用意し、幼児が見付けたり、集めたりした自然物を遊びに取り入れられるようにする。</li> <li>人 簡単なルールのある遊びを取り入れ、みんなと一緒に体を動かしたり活動に参加したりする楽しさを感じられるようにする。</li> <li>生 運動会は、幼児が取り組んできた運動的な遊びを基にし、普段の生活の延長上として楽しめるようにする。</li> <li>生 運動会を体験したことで楽しさを感じて始める遊びの中で、自分から動いたり、物の貸し借りに必要な関わり方を知ったりできるようにする。</li> </ul>
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>2学期が始まり、短時間保育児、長時間保育児とも久しぶりの全員保育に、戸惑ったり疲れしたりする姿があることを知らせ、生活リズム(早起き・食事・排泄・睡眠等)を整える大切さを伝えていく。</li> <li>運動会当日に向かうまでの過程を知らせながら、行事を通して経験していることや育っていることを伝えていく。</li> </ul>

長時間保育	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>人 一緒にいたい幼児ができ、関わって遊ぶ。</li> <li>生 夏季休業が終わり、全員保育から長時間保育への流れを思い出し、自分から動こうとする。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>人 長時間保育の少人数の生活の中で、ゆっくりとそれぞれのペースで遊んだり、他の幼児と関わって遊んだりできる遊具や場の設定をする。</li> <li>生 運動会の体験を通して、4・5歳児への憧れをもつようになるので、関わる機会や一緒に運動会の活動を再現して遊べる場を設けたりする。</li> <li>生 2学期が始まり、長時間保育の生活の流れが変わることや運動的な活動が多くなることから、疲れや緊張を感じることもあるため、ゆったりと過ごせるよう配慮する。</li> </ul>

〇〇になってみよう

**生** 保育者と一緒に伸び伸びと体を動かして楽しむ

**生** 保育者との信頼関係を基盤に、どの幼児も抵抗なく参加できるような雰囲気作りをする。保育者や他の幼児と一緒に、何かになって動いたり踊ったりするなど、その幼児なりに満足して行えるよう、保育者はありのままの表現を受け止める。また、「次はこうやってみよう」と幼児がいろいろと試す姿を認めていく。

**生** 体を動かして楽しみながら、跳ぶ・這うなど多様な動きを経験できるよう援助する。

**学** 「ビョンビョン」「ドッシン・ドッシン」などの擬声語・擬態語(オノマトペ)や雰囲気のある音楽なども幼児の動きを引き出す環境として必要な場合もあるが、幼児自身の発想や動きを受け止め、主体性が損なわれないように配慮することも大切である。



「だんだん風が吹いてきて、わ〜飛ばされる!」と言う保育者の言葉に、幼児は「ゆらゆらする」「飛ばされないぞ」とイメージをもって楽しみながらバランスをとろうとする。



「のっし!のっし!がお〜」とライオンになっている幼児。保育者は「前足も後ろ脚もしっかり地面を蹴って、速く走れそうだと」幼児のイメージを受け止め、動きを引き出していく。

「わたしはネコさん」「そうなの。ネコさんね」「そととそとと」「忍者みたい!」「そうだよ。忍者だよ」と幼児の動きや発想を受け止め、一緒に動く。

〇〇になってみよう

**人** 簡単なルールが分かり鬼ごっこを楽しむ

**人** わらべうたや簡単なストーリー仕立ての鬼ごっこを遊びに取り入れることで、ルールのある遊びの楽しさを味わえるようにする。

**生** わくわくして逃げたり追いかけてたりして十分に体を動かす楽しさを繰り返し味わえるようにする。



「むっくりくまさん、むっくりくまさん穴の中!眠っているよ、グーグー!寝言を言ってむにゃむにゃ!」としゃがんで歌う。曲の終わりが近づくとワクワクしてくる。



「目を覚ましたら目を覚ましたら食べられちゃうよ!」と歌い終わると同時に、逃げ、「鬼」は追いかける。歌を歌っている静的な場面と、追いかけて走る動的な場面の差があり、繰り返し楽しめる。

ねらい	学	自分で選んだ活動をしたり、同じ場にいる幼児と関わったりしながら遊ぶ楽しさを味わう。
	人	保育者や他の幼児と一緒に体を動かしたり、触れ合ったりする楽しさを感じる。
学び	学	園生活に必要なことが分かり、自分でできることは自分でしようとする。
	思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の幼児がしていることに興味をもち、自分もしてみようとする。</li> <li>落ち葉や木の実などの秋の自然物に関心をもち、触れたり、見立てて遊んだりする。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じ場にいる幼児に思ったことを話したり、気に入った言葉を一緒に言ったりする楽しさを感じる。</li> <li>年末年始の挨拶や日本の伝統文化に触れる。</li> </ul>
人とのかわり	創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>かいたりつくったりすることを楽しみ、それを使って遊ぼうとする。</li> <li>好きなものになりきったり、見立てたりして、自分のイメージを表現して楽しむ。</li> <li>楽器を鳴らしたり、歌ったりすることを楽しむ。</li> </ul>
	協同	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者や他の幼児と一緒にすることを楽しみにして学級の活動に参加する。</li> <li>自分の思い通りにならないことがあることや、相手にも思いがあることを感じる。</li> </ul>
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>困っていることや手伝ってほしいことなどを保育者に伝えようとする。</li> <li>異年齢児と触れ合い、楽しんだり憧れを感じたりする。</li> </ul>
生活	規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者や他の幼児と一緒に、簡単なルールのある遊びを楽しむ。</li> <li>散歩で園外に出るときは、保育者と一緒に安全に気を付けて歩く。</li> </ul>
	自立した生活の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>手洗いやうがいの大切さが分かり、自分からしようとする。</li> <li>上着の着脱など冬の生活の仕方を知り、自分からやってみようとする。</li> </ul>
	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>みんなと一緒に食べることを楽しみ、残さず食べる。</li> </ul>
環境の構成・援助のポイント	運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。</li> <li>保育者や友達と散歩に行き、たくさん歩く。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 何人かの幼児と一緒に遊ぶことや同じ場にいることを楽しめるように、自分たちでも扱いやすい積み木やついたて、身に付けるものなどを用意しておく。</li> <li>学 見立てたり、なりきったりしている面白さや幼児のイメージを保育者が受け止め、楽しさに共感する。</li> <li>学 自然に触れる中で色、形、大小などの発見を楽しめるよう、幼児の気持ちを引き出したり、共感したりする。</li> <li>学 自分たちで拾ったどんぐりや落ち葉などの自然物を使って遊べるような環境や素材を用意する。</li> <li>学 自分でつくって遊ぶことを楽しめるように、製作コーナーの素材を少しずつ増やしていく。セロハンテープやハサミなどの用具を遊びの中でも使えるように設定し、安全な扱い方を繰り返し知らせていく。</li> <li>学 絵本は、リズムカルな言葉や繰り返しのある話を選択し、興味をもって聞き、創造する楽しさを味わえるようにする。</li> <li>人 他の幼児に親しみを感じ、自分中心の主張をしながらも、少しずつ相手に伝えようとする。言葉でうまく伝えられない場面では、保育者が気持ちを汲み取って仲立ちをしながら、相手にも思いがあることを感じ取らせていく。</li> <li>生 11月から全員保育の降園時刻を13時30分にすることで、より園生活が充実するよう生活の流れを工夫する。</li> </ul>
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>11月から全員保育の時間が30分長くなることで園生活が充実する一方、幼児の疲れが出てくることなどについて丁寧に説明し、家庭での生活リズムを見直したり整えたりする機会にしていける。</li> <li>自然物を使って幼児が遊んでいる姿を知らせ、家庭でも親子で自然に親しめるようにする。</li> </ul>	

長時間保育	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 自分のやりたい遊びを見つけて遊ぶ。</li> <li>人 4・5歳児がしていることをまねたり、一緒に遊んだりする。</li> <li>生 午睡時の身支度やコット・布団の始末を自分でしようとする。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>人 4・5歳児がしていることを、3歳児の実態に合う方法に変えながら、自分もできた嬉しさや楽しさが味わえるように支えていく。</li> <li>生 全員保育の時間が長くなることを踏まえ、午睡時にはしっかりと体を休められるようにする。</li> <li>生 午睡時の身支度等を自分でしようとする姿を認め、自分でやってみようと思えるよう、やり方を知らせたり手伝ったりしながら支えていく。</li> <li>生 夕方には冷えることがあるため、上着の着用など、自分で調節していく方法を知らせていく。</li> </ul>

葉っぱのお風呂だね

学 落ち葉に触れたり見立てたりして遊ぶ楽しさを感じる

学 秋の自然に触れて遊べるよう、幼児が登園するまで、意図的に落ち葉を片付けずに残しておく。  
 学 幼児に扱いやすい大きさの熊手などの道具を用意する。



園庭で保育者と4歳児が落ち葉掃きをしている姿も、3歳児にとっては意欲を掻き立てる環境となる。



4歳児の姿に興味をもって

3歳児も「ぼくもやりたい」「わたしもやりたい」と同じように落ち葉を集める。葉っぱの上に「ふわふわだ」と言いながら、座ったり寝転んだりする。



幼児の「ふわふわ」という感覚を大切にしたいと考えた保育者は、葉っぱが散らばらないよう積み木で落ち葉の山を囲う。それを見て幼児は「葉っぱのお風呂!」と大喜び。保育者の援助が、幼児の葉っぱの山をお風呂に見立てて遊ぶきっかけとなった。



葉っぱのお風呂の側に台所をつくると、「葉っぱのごちそうもつくりましょう」とごちそうをつくり始める。お風呂から出るとごちそうを食べる幼児もいる。



「葉っぱのごちそう、おいしいな」「またお風呂に入ろう」と繰り返し楽しむ。

散歩に行きまーす

学 保育者や他の幼児と散歩に行き、落ち葉や木の実に関心をもつ

生 散歩に行くときには、木の葉やどんぐり、マツボックリ等の自然物を見つけたら集めたりすることにも期待をもって歩けるようになる。  
 学 集めた自然物を遊びに取り入れる計画や意図がある場合には、学級の袋を用意し、共同の物として使えるようにする。一人ひとりが自分の袋に拾い集める場合は「自分の物」という思いを尊重して扱う。  
 学 自然物を製作や動きの表現にも取り入れることで、季節ならではの楽しい経験になり、色・形・数量等の発見にもつながる。



集めた自然物を分類して、置いておき幼児が使って遊べるようにする。



ねらい	学	自分の思いを出しながら、好きな遊びを十分に楽しむ。
	人	保育者や他の幼児と一緒にすることを楽しみ、伸び伸び動く。
学び	思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>コマ回し・凧揚げなどの正月遊びを楽しむ。</li> <li>雪・氷・霜柱に興味をもって見たり触れたりする。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活に必要な言葉や思いを表す言葉が分かり、使おうとする。</li> <li>絵本や紙芝居などをみんなで見たり、登場人物になりきってお話の中の言葉を言ったりする。</li> </ul>
	創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>正月や節分、桃の節句などの伝統的な行事の雰囲気を楽しむ。</li> <li>絵本やお話のイメージを楽しみ、自分なりに動いたり表現したりする。</li> <li>音楽のリズムに合わせて動いたり楽器を鳴らしたりすることを楽しむ。</li> </ul>
人とのかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単なルールのある遊びを学級のみんなで楽しむ。</li> <li>身近な幼児と一緒に動いたり、簡単なやりとりをしたりしながら遊びを楽しむ。</li> </ul>
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者や周りの幼児と関わる中で、自分の思ったことや感じたことを言葉や動きで表そうとする。</li> </ul>
	規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>「並ぶ」「交代で使う」などの生活に必要な過ごし方を知る。</li> </ul>
生活	自立した生活の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りのことを自分でしようしたり、できるようになったことを喜んだりする。</li> <li>自分で使ったものを片付け、きれいになる気持ちよさを感じる。</li> </ul>
	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分から食事の準備をしたり、片付けをしたりする。</li> <li>食事の姿勢やスプーンやフォーク、箸の持ち方を意識し、みんなと一緒に楽しく食べる。</li> </ul>
	運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>寒くても戸外に出て、全身を動かして遊ぶ楽しさを感じる。</li> <li>固定遊具や巧技台を使って遊ぶことを通して、いろいろな体の動きを楽しむ。</li> </ul>
環境の構成・援助のポイント	学	見立てやつもりになって遊べる環境を工夫し、「やりたい」「なりたい」「つくりたい」という気持ちを実現して楽しめるようにしていく。
	学	コマ回し・凧揚げなどの遊びは、年齢に応じたものを選び、「やりたい」「自分もできた」という気持ちをもてるようにする。
	人	幼児同士の気持ちのつながりや楽しんでる雰囲気を感じ取り、「一緒だね」「楽しいね」と言葉や笑顔で共感していく。また、相手にも思いがあることや、相手にどう言えばよいかを気付かせたり、橋渡しをしたりしていく。
	生	生活習慣について一人ひとりの実態を把握し、自分からやろうとする姿を認め、進級に向けての自信につなげていく。
	生	手洗い・うがいの大切さを知らせ、丁寧な洗い方が身に付くよう関わる。『ブクブク』と『ガラガラ』うがいの違いを視覚的にも分かるように表示する。
家庭との連携	学	寒い気候でも戸外に出たり体を動かしたりする機会を多く作り、体を動かす心地よさを感じられるようにする。
	生	新しく年下の幼児が入園することを伝え、これまで使ってきた保育室をきれいに片付けることを通して、進級を「嬉しい」「楽しい」気持ちで迎えられるようにしていく。
長時間保育	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 自分のやりたい遊びを繰り返したり、身近な幼児と関わったりして遊ぶ。</li> <li>人 4・5歳児がしていることに興味をもったり、一緒に遊んだりして親しみをもつ。</li> <li>生 生活の仕方が分かり、気付いたことやできることを自分でしようとする。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>人 4・5歳児と交流する中で、自分もやってみたいという思いを受け止め、3歳児なりに楽しめるような援助をしていく。</li> <li>生 感染症予防に配慮し、室内の温度や湿度に気を配る。</li> <li>生 進級に向けて4歳児の新しい生活の仕方に少しずつ移行していく。</li> </ul>

ぼくもやりたい  
わたしもやりたい

保育者や他の幼児と同じものを持ったり  
同じ動きをしたりして伸び伸び動く

日本の伝統的な行事や遊びに触れながら、生活や遊びが豊かになるようにする。

- 人 他の幼児と一緒に動く楽しさやつながりを感じられる遊びの選択や環境の構成をしていく。
- 学 遊びのコーナーとして製作の場を設定しておき、興味をもった幼児が自分から取り組めるようにする。
- 学 幼児の発達や技能に応じた教材を選択することで、新しい遊びの面白さを感じるとともに、成功体験を重ねられるようにする。

凧揚げ

ビニール袋・セロハンテープ・ひも等をテーブルに設定する。  
「これを使えば凧ができそう」と幼児が見通しをもって関われる環境を用意することで、「やってみよう」とつくり始め「自分でできた」という喜びを感じる。



保育者が凧揚げをしながら走る姿を見て、幼児も続いて走り出し、「ぼくの凧も揚がったよ」「先生見て!わたしの凧も揚がった!」と他の幼児と一緒に走ったり、凧揚げをしたりする楽しさを感じる。保育者は幼児の憧れを形成するモデルの役割として大切な環境でもある。



先生と一緒に!うれしい!

羽根突き

5歳児の姿に憧れ、「羽根突きをしたい」という幼児の思いに寄り添い、保育者が3歳児も楽しめるように環境を工夫すると、幼児は羽子板で羽を突き「できた!」という喜びを感じる。



コマ回し

両手をすり合わせて回す『手回しコマ』を教材として選択し、3歳児が繰り返し楽しめるようにする。輪を置くと、その中でコマを回し始める。他の幼児も同じ場で回し始め、互いのコマを見たり一緒に回したりして楽しむ。自分のコマを大切に扱えるよう、片付ける場も設定しておく。



桃の節句

「かわいいのができた。もっとつくりたい」と台紙に顔をかいたり、丸い紙を折って着物にしたりして自分なりのお雛様ができた満足感を味わい、つくることを繰り返す。



ねらい		<p><b>学</b> 入園・進級したことを喜び、自分の好きなものや場を見つけて遊びを楽しむ。</p> <p><b>人</b> 保育者や友達に親しみを持ち、一緒に遊ぶ楽しさを感じる。</p> <p><b>生</b> 新しい生活の仕方が分かり、安心して過ごす。</p>
学	思考	<p><b>進級児</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分から好きな場や遊びを見つけて楽しむ。</li> <li>身近な自然に興味をもって触れ、親しみを感じる。</li> </ul> <p><b>新入園児</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気に入った場や遊びを見つけて安心して楽しむ。</li> <li>身近な自然に興味をもって触れ、親しみを感じる。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>思ったことや感じたことを言葉で表現しようとする。</li> <li>保育者や友達と一緒に絵本や紙芝居を見ることを楽しむ。</li> </ul>
	創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>見立てたり、何かになったつもりになったりして遊ぶ。</li> <li>歌を歌ったり、簡単なリズムに乗ったりして表現することを楽しむ。</li> </ul>
人 人とのかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> <li>親しい友達と同じ場や同じ遊びを楽しむ。</li> <li>学級のみなどと一緒に動く楽しさを味わう。</li> <li>保育者や同じ場にいる友達と触れ合って遊び、親しみを感じる。</li> <li>学級のみなどと一緒に遊んだり過ごしたりすることを楽しみにし、安心して過ごす。</li> </ul>
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>思ったことや困ったことを保育者に伝える。</li> <li>保育者に親しみをもって関わり、安心して過ごす。</li> <li>思ったことや感じたことを言葉や動きで表す。</li> </ul>
	規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊具や用具の使い方が分かり、安全に使う。</li> <li>みんなで過ごすために必要な約束があることが分かる。</li> </ul>
生 生活	自立した生活の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい学級での生活の仕方が分かり、自分からやってみようとする。</li> <li>園での過ごし方や身の回りの始末の仕方を知り自分からやってみようとする。</li> </ul>
	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者や学級の友達と一緒に楽しく食べる。</li> <li>箸を使って食べようとする。</li> <li>園での食事の手順を知り、保育者や学級の友達と楽しく食べる。</li> <li>箸の使い方が分かり、使って食べようとする。</li> </ul>
	運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者や友達と一緒に体を動かすことを楽しむ。</li> </ul>
環境の構成・援助のポイント	<p><b>学</b> 幼児が少し手を加えれば簡単につくれるような材料や用具を用意し、自分もやってみたいと思えるようにする。</p> <p><b>学</b> 学級のみなどでの活動を楽しめるように、身近な生活に関する親しみやすいお話や手遊び、歌などを選択する。</p> <p><b>学</b> 幼児と相談しながらいろいろな種や苗、プランターや植木鉢を用意して種まきや苗植えを行い、保育室の側に置いて植物の生長を毎日観察できるようにする。</p> <p><b>人</b> 新入園児にも進級児にも言葉を掛けたりスキンシップを図ったりして幼児との信頼関係を築いていく。特に進級当初は、進級児がこれまでの生活を基盤に安心して過ごせるような環境構成に配慮し、新入園児一人ひとりにも丁寧に関わられるようにする。</p> <p><b>人</b> 進級児と新入園児が関わりながら場をつくり、遊びに使うものをつくりたいような素材や遊具を用意する。</p> <p><b>生</b> 保育者が幼児と一緒に動きながら、遊具の使い方や片付け方を知らせていく。</p> <p><b>生</b> どの幼児にも遊具や用具の使い方が分かるように、表示や置き方などを工夫し、幼児が自分から使ったり片付けたりできるようにする。</p>	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>新入園児の保護者には、園での幼児の様子や連絡事項を丁寧に知らせ、保護者が安心できるように工夫する。</li> <li>保護者会では新入園児保護者と進級児保護者が親しくなるような内容を工夫する。</li> <li>園生活で友達との関りが増えることから幼児同士のトラブルが増えることも予想される。トラブルを通して人と関わる力が育つことを保護者に伝えながら、園と家庭が共に幼児の成長を支えるよう信頼関係を築いていく。</li> <li>園と家庭で連携し、新入園児も徐々に箸を使って食べられるようにする。</li> <li>4歳児全員保育の降園時刻を1学期中は13時30分とし、幼児が園生活に慣れて安心して過ごせるよう配慮していることを保護者に伝える。(2学期からは14時降園)</li> </ul>	
長時間保育	内容	<p><b>学</b> 保育者や友達と一緒に好きな遊びを楽しむ。</p> <p><b>生</b> 長時間保育の生活の流れや休息の仕方、長時間保育室の使い方が分かる。</p>
	環境の構成・援助のポイント	<p><b>学</b> 遊び慣れた遊具や安心して過ごせる場の構成を工夫し、自分から遊びを見付けられるようにする。また、一人ひとりがやりたいことにじっくりと取り組めるよう、遊具の数や場の設定などの環境を工夫する。</p> <p><b>生</b> 進級に伴い4・5歳児が長時間保育の新たな環境で安心して過ごせるように、幼児の身支度の仕方、動線などを保育者同士で共通理解を図り保育にあたるようにする。</p> <p><b>生</b> 安心して休息がとれるように、コットや布団などの配置を工夫したり、不安な幼児には寄り添ったりする。</p>

友達、増えた

**学** 好きな場や遊びを見つけて安心して楽しむ

**学** 1学期当初は、遊具を「遊びかけ」の状態に設定しておく。興味をもった幼児がブロックや積木などを手に取り、遊び始めることで、進級児と新入園児が自然に同じ場や同じ遊びをして過ごせるようにする。

**人** 3歳児学級で使った遊具や未就園児親子の会で使った遊具も置いておき、進級児も新入園児も親しみを感じて安心して遊べるようにする。



ブロックだ やったことがある



面白いのが できてきたね



わたし、お母さん

わたしも、お母さん

「やったことがある」「やってみよう」「ほくもやる」とつないだり、並べたり、組み立てたりすることを楽しむ。やりたい幼児が楽しめるように、十分な数や量を用意しておく。

ござを敷いたり人形を置いたりして、遊びの場を作っておくことで、「わたしお母さん」「わたしも」と言って遊び始める。

**学** 遊びを豊かにするために日常的に製作コーナーを設定する。製作コーナーには幼児の実態に応じて、安全に自分で扱える材料や用具を用意する。

**学** 持って遊べるもの、身に付けて遊べるもの等の材料を用意し、遊びをイメージしてつくったり、つくったもので遊んだりする楽しさを感じられるようにする。



**学** 時には日常的な製作コーナーとは別に、意図的・計画的に製作コーナーを設定し、新しい材料やつくり方に触れ、つくって遊ぶ楽しさを味わえるようにする。

広告紙を棒状に丸めたもの・星型、ハート型に切り抜いた色紙・色とりどりの紙テープ・セロハンテープを机上に設定しておく。いつもとは違う環境に気付いた幼児が、棒の端に星型の色紙と紙テープを貼り付けて魔法のステッキをつくり始める。自分から広告紙を丸めて棒状のものをつくる姿も出てくる。



「そっと巻いて」と、紙を丸めて棒状にすることに 取り組む幼児もいる。



保育者が用意した材料を見て、「この棒は魔法のステッキにしよう」「水色の星を付けるわ」と言ってつくり始める。



魔法のステッキを 持って踊りましょう

ステッキができあがると、「このステッキがあれば魔法が使えるの」「わたしも同じ」「おそろいね」と言って遊び始める。

**学** 保育者は教材研究を基に、幼児が設定された対象にどのように出会い、関わるかを考慮し、製作コーナーを構成していく。

**学** 保育者が遊びの共同作業者・共鳴するものとしての役割をもって動き、幼児が見立てたり、つもりになったりして遊ぶ楽しさを味わえるようにする。

学	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 自分の思いを言葉や動きで表して遊ぶ楽しさを味わう。</li> <li>人 保育者や友達と触れ合ったり関わったりして、遊ぶ楽しさを味わう。</li> <li>生 学級の人々と一緒に体を動かして遊ぶことを楽しむ。</li> </ul>
	思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味をもったことに自分から関わって遊ぶ中で、面白さを感じる。</li> <li>砂や泥、水などの感触を楽しむ。</li> <li>野菜の苗植えや種まきをし、水やりをしながら生長を楽しみにする。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思っていることや感じたことを、保育者や友達に伝えようとする。</li> <li>絵本や歌、リズムのある言葉に関心をもち、一緒に口ずさむことを楽しむ。</li> </ul>
人	創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな素材を使ってかいたりつくったりして遊ぶことを楽しむ。</li> <li>自分の思い付いたものや遊びに必要なものをつくって遊ぶことを楽しむ。</li> </ul>
	協同	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と一緒に動いたり、同じものを持ったり身に付けたりして遊ぶ中で、つながりを感じる。</li> <li>学級の人々で遊ぶ中で、部分的に動きがそろったり、唱和したりする楽しさを感じる。</li> </ul>
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思っていることや感じたことを動きや言葉に表す。</li> <li>自分の思いや困ったことを保育者や友達に伝えようとする。</li> </ul>
生	規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全に過ごすための約束や決まりに気付き、守ろうとする。</li> <li>水遊びやプールに入る手順が分かり、安全に気を付けて行動する。</li> </ul>
	自立した生活の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>園生活に必要なことが分かり、自分から行おうとする。</li> <li>天候に合った生活の仕方(水分補給・汗をふく・日陰の涼しさ等)を知り、自分から行おうとする。</li> </ul>
	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏野菜の収穫を通して、学級の人々で一緒に食べる楽しさを感じる。</li> </ul>
生活	運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者や友達と一緒に踊ったり体を動かしたりして遊ぶ楽しさを味わう。</li> <li>水の感触を楽しみながら、様々な遊びや動きをすることで、開放感を味わう。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 保育者も遊びの仲間の一員として加わり、幼児のイメージや動きを読み取りながら具体的に言葉に表していくことで、更に幼児が自分の思いを言葉や動きに表して遊ぶ楽しさを味わえるようにする。</li> <li>学 いろいろな素材に触れる活動を取り入れ、伸び伸びとかいたりつくったりする楽しさを感じられるようにする。</li> <li>人 友達と一緒に遊ぶ中で、思い通りにならないことや困ったことを経験し、相手にも思いがあることや自分の考えを相手に伝える必要性に気付き、言葉で表そうとする姿を支えていく。</li> <li>人 友達と声を合わせて楽しむゲームや追いかけてなどを遊びに取り入れ、触れ合う心地よさを感じたり、友達と一緒に気持ち弾ませたりする経験ができるようにする。</li> <li>生 水遊びなどの身支度や後始末の手順については、どの幼児にも分かるよう絵や写真などの視覚的な環境を工夫し、水遊びに期待をもって取り組めるようにする。</li> </ul>
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達への関心が高まる時期であることを踏まえ、言葉の使い方や思いの表し方などについて幼児の実態と園の対応を丁寧に伝える。また、学級だよりや保育参観等を利用して、具体的な場面を通して幼児の発達について知らせ、家庭の理解を図り、共に成長を見守って行くことができるようにする。</li> <li>着替えの際に裏返った服を元に戻す、たたむといった生活習慣を、家庭でも繰り返し行うことができるように伝えていく。その際に、自分で行おうとしている気持ちを大切に温かく見守り、できたときに認めることで、自信や意欲につながることを知らせていく。</li> </ul>	
長時間保育	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>人 身近な友達や保育者との触れ合いを楽しみながら遊ぶ。</li> <li>生 長時間保育の生活の流れや夏の生活の仕方が分かり、自分でできることを自分からしようとする。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>人 保育者も一緒に遊びながら、4・5歳児の生活の中で自分の思いを伝えられるように援助していく。</li> <li>生 気温に応じて、室温調整や換気を行い、快適に過ごせるようにする。</li> <li>生 汗をかいたときの着替えや水分補給の必要性に気付いて自分からできるように援助する。</li> <li>生 暑さや全員保育の活動内容(プールや水遊び等)に応じて、長時間保育の活動の静と動のバランスに配慮する。</li> </ul>

みんなですると楽しいな

学級の人々で遊ぶ中で、部分的に声や動きがそろって楽しさを感じる

学 ゲームやわらべうたの遊び、音楽に合わせての踊りは、学級の人々の声や動きがそろって楽しさがある。幼児にとって魅力的なゲームや歌を選択して、心弾む経験ができるようにする。  
人 チームに分かれる遊びではチームの数を2種類から始めると、どの幼児にも自分のチームやルールが分かりやすく、楽しめる。

ゲーム(フルーツバスケット)



保育者は「バナナの人は誰ですか?ミルクの人は?」と幼児が自分のチームを分かっているかを把握したり、「自分の食べ物が呼ばれたら違う席に引越します」と簡潔にルールを知らせたりする。

リズムカルな言葉をみんなで言いながら、引っ越しのタイミングが分かって自分から動けるようにする。「わたし、バナナ。席を引越し!」「キャー!空いている席はどこ?」と大喜びで動く。

人 フルーツバスケットでは、フルーツの絵のペンダントを用意しておき、ペンダントを掛けることで何のチームなのか、自分にも他の幼児にも分かるようにする。



わらべうた・歌遊び

人 新しい遊びを導入する時には、分かりやすく遊び方やルールを伝える。何度かやったことのある遊びでも、忘れてたり守れなかったりしてトラブルになることもあるので、改めてルールを確認し、ルールを守ることで遊びが楽しくなることを感じられるようにする。



幼児が手をつなぎ「もぐらどんのおやどかね」と、わらべうたに合わせて円形に歩くこともできるようになり、友達とのつながりを感じる。「もぐらさん、もぐらさん。朝ですよ。おきなさい」とみんなで呼びかけ、一斉に走って逃げだすことが嬉しい。



友達への関心が高まる時期なので、二人組で行う遊びも繰り返し取り入れる。「てくてくてくて歩いて来て、握手でごんには」と歌いながら踊り、触れ合いを楽しむ。「なべなべ」などのわらべうたも楽しい。

ねらい	学	興味や関心をもって自分から関わり、様々な遊びを楽しむ。
	人	学級の中で伸び伸びと自分の思いや動きを出して遊ぶことを楽しむ。
	生	園生活に必要なことに気付き、自分からしようとする。
学	思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな遊びや興味のあることに自分から関わってみようとする。</li> <li>身近な秋の自然に関わりながら、自然物を集めたり遊びに取り入れたりする。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達との関わりの中で、自分の思いや考えを言葉や動きに表していく。</li> <li>友達の言葉や動きに気付き、話を聞こうとしたり、返事をしたりする。</li> </ul>
	創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊具や用具の扱いに慣れ、組み合わせて場を作って遊ぶ中で、なりきって動く楽しさを感じる。</li> <li>友達と一緒に体を動かしたり自分なりに表現をしたりして楽しむ。</li> </ul>
人のかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを出して遊びながら、同じ場にいる友達との関わりを楽しむ。</li> <li>学級のみならず「一緒にできた」「楽しかった」という嬉しさを感じる。</li> </ul>
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを保育者や友達に受け止められる嬉しさを感じる。</li> <li>5歳児と一緒に動く中で、親しみや憧れの気持ちをもつ。</li> </ul>
	規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団遊びを通してルールを守って遊ぶ楽しさを味わう。</li> <li>ルールのある遊びの楽しさを感じる。</li> </ul>
生活	自立した生活の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回りの始末や使った物の片付けを自分からしようとする。</li> <li>一日の生活の流れや園生活に必要なことが分かり、自分から行おうとする。</li> </ul>
	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事のマナーを身に付け、保育者や友達と一緒に食べることを楽しむ。</li> </ul>
	運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな動きを試しながら、十分に体を動かして遊ぶことを楽しむ。</li> </ul>
環境の構成・援助のポイント	学	運動会に向けての取組は、幼児がこれまで経験してきた運動的な遊びを基に、いろいろな動きや幼児の興味のあるテーマを取り入れながら、遊びの延長上として楽しめるようにする。
	学	運動会を体験したことで出てくる5歳児への憧れの気持ちや「やってみたい」という気持ちに共感し、自分たちの遊びに取り入れられるよう環境を整える。
	生	9月から全員保育の降園時刻が14時になることを配慮し、昼食後の生活の流れを工夫する。午前中に学級のみならず楽しんだ活動やルールのある遊びを食後に再度楽しめるようにする。
	人	幼児同士の思いがぶつかりトラブルになるときには、互いの思いを十分に伝えるように保育者が言葉を添えたり、受け止めたり、言葉に表したりしていきながら、相手の思いに気付けるようにする。
学	園生活に必要な仕事(机を拭く・ヤカンを運ぶ等)があることが分かり、張り切って取り組む姿を認め、「自分もできた」という喜びを感じられるようにする。やりたい幼児から取り組み始め、「当番」として順番に行う方法も提案したり気付かせていく。	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休み明けからの幼児の様子や園からの連絡を丁寧に伝え、保護者も幼児も安心して2学期の生活をスタートできるようにする。</li> <li>全員保育の降園時刻が14時になることで、遊びがより充実していく様子を伝えていく。</li> </ul>	
長時間保育	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>他学年の幼児に親しみの気持ちもち、一緒に遊ぶ。</li> <li>夏季休業が終わり、全員保育から長時間保育への流れを思い出して生活を進める。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏休み明けには園庭および室内遊びの約束は全員保育の時間と共通であることを確認する。</li> <li>全員保育の時間が長くなることから長時間保育の生活リズムが変わることを保護者に知らせる。また、保護者と情報を共有し、幼児の体調の変化や様子を丁寧に見ていく。</li> <li>休息の時間が短くなるので、一人ひとりのリズムを把握し、すっきりと目覚められるようにしていく。</li> <li>全員保育での運動量が増えたことで疲れが見られる時には、状況に応じてそれぞれのペースで過ごせるように室内遊びの環境を工夫する。</li> <li>異年齢の幼児との関わりが楽しいものになっていくように、必要に応じて橋渡しをしながらかつ、関わり方に気付かせていく。</li> </ul>

もう一回! またやりたい

生 いろいろな動きを試しながら十分に体を動かして楽しむ

生 よじ登ったり、ジャンプしたり、ケンケンしながら前に進んだり、バランスをとって渡ったりするなど、多様な動きを体験できるよう、保育者は幼児と相談しながら一緒に場を設定する。

学 「こうやってみよう!」「先生見て!」という思いを受け止め、幼児が考えたやり方や動き方に共感することで幼児の意欲を高めていく。

人 遊びながら、遊具の安全な使い方や順番を守ることでみんなが気持ちよく参加できることにも気付かせていく。

いろいろな動き



「ここはジャンプをするところ」「長いコースにしよう」と保育者や友達と一緒に場をつくりながら、遊びや動きのイメージをもつ。



「ジャンプ!」「次は違うジャンプ!」「もう一回やろう!」と幼児が挑戦したり、「先生見て!」と保育者に受け止められる嬉しさを感じたりして遊ぶ。



「一本橋を渡ろう」「もっとなげよう」と、場を広げたり変化させたりしながら、いろいろな動きを試したり楽しんだりする。

学 運動会に向けての取組が盛んになる時期には、遊びの延長で楽しみながら、運動会につながる内容や環境を工夫していく。

生 かけっこは、園庭の端から端まで走ったり、固定遊具などの目標物まで走ったり、距離や方向を変えながら走ることを楽しめるようにする。

人 転んでも泣かなかつたことや走っている友達を応援していることも認め、自信につなげていく。



「あそこまで走ろう」「よい、ドン!」と走ることが嬉しい。

玉入れ

学 玉入れは、自分たちで紙を丸めてつくった玉を使ったり、1台の玉入れカゴにみんなで玉を入れたりして、「投げたい」「やってみたい」という意欲を高めていく。

生 繰り返し遊びの中で取り組むことで、玉の投げ方をいろいろと試し、たくさん入れたいという思いが強くなるよう援助し、チームで競い合う楽しさにつなげていく。



紙を丸めて玉ができた

入るかな

「自分でつくった玉。入るかな」「入った!」とカゴを狙って玉を入れることに夢中になり投げ続けることを繰り返す。



入った

また入った

とんとん投げよう

「赤玉をたくさん入れよう」「入った!」と赤玉を投げることで、「赤チームと一緒にやった」「たくさん入った」と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。

ねらい	学	見たことや感じたことなどを様々な方法で自分なりに表現することを楽しむ。
	人	自分の思いや考えを相手に伝えながら友達と関わって遊ぶことを楽しむ。
学び	思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然の変化に気付き、自然物に触れたり使ったり表現したりして遊ぶことを楽しむ。</li> <li>遊びに必要なものをつくったり、使ったりして楽しさを感じる。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いや考えを言葉や動きで表し、友達とのやり取りを楽しむ。</li> <li>友達の言葉や動きに気付き、話を聞いたり返事をしたりする。</li> </ul>
	創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単なリズム楽器を鳴らして、音やリズムを楽しむ。</li> <li>お話に出てくる人や動物などになりきって表現することを楽しむ。</li> </ul>
人のかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の動きや言葉に応じて一緒に遊ぶことを楽しむ。</li> <li>簡単なストーリーや遊びの流れの中で、友達とやり取りをすることを楽しむ。</li> </ul>
	信頼	自分の動きや言葉が、友達に伝わる楽しさを感じる。
	規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同で使う遊具や用具を大切に、一緒に使ったり片付けたりする。</li> <li>ルールのある遊びを友達と一緒に楽しむ。</li> </ul>
生活	自立した生活の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>手洗い、うがいの大切さが分かり、すすんで行く。</li> <li>必要に応じて衣服の調整を自分で行う。</li> </ul>
	食育	友達や保育者と一緒に食べる楽しさや喜びを感じる。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と一緒に、簡単なルールのある遊びを楽しむ中で思い切り体を動かす。</li> <li>なわ跳びや鉄棒等の運動的な遊びに興味をもち、自分からやってみようとする。</li> </ul>
環境の構成・援助のポイント	学	製作コーナーには自分で選んだり組み合わせたりできるような材料や用具を用意し、「自分が思い付いたことを自分で実現できた」という経験を積み重ね、自信につなげていく。
	学	友達と2~3人で好きな遊びに取り組んだり、遊びのイメージが共通になったりするように、保育者も一緒になって遊びの場を構成したり、遊びのイメージを具体的な言葉や動きで応じたりしていく。
	学	幼児が見付けた木の実や落ち葉などの自然物を集めたり並べたりして遊ぶ中で、色や形の美しさや面白さ、不思議さを感じられるよう、保育者も共感する。
	人	自分の思いを言葉や動きで表そうとする気持ちを認めたり支えたりしながら、相手に思いが伝わる楽しさを感じたり、友達の思いに気付いたりする機会となるようにする。
生	鬼ごっこや簡単なルールのある運動的な遊びを学級のみならず、体を動かす心地よさやみんなと一緒にする楽しさを感じられるようにする。	
生	巧技台や鉄棒、なわ跳び、ボールを用いて、いろいろな動きを経験できるようにする。	
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬に向かい、手洗い・うがいの大切さや衣服の調節(厚着をしすぎない)について保護者に伝えていく。</li> <li>2学期末の保護者会では園生活の様子が分かる映像等を活用し、幼児の育ちや3学期に向けて大切にしていきたいことを伝える。</li> </ul>	

長時間保育	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 人 友達や5歳児と一緒に体を動かしたり関わったりして遊ぶことを楽しむ。</li> <li>生 冬に向かっての生活の仕方を知り、健康に過ごす。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 寒さの中でも、5歳児の刺激を受けながら、かけっこや鬼ごっこ、長なわ跳びなどに挑戦したり、一緒に楽しんだりできるような環境を設定する。</li> <li>人 異年齢児との関わりでは、幼児の様子をよく見ながら、必要に応じて橋渡ししたり思いを引き出したりして、互いの思いを感じ合えるようにする。</li> <li>人 日没が早くなり不安を感じる幼児もいるので、その気持ちに寄り添いながら、いろいろな遊びに誘ったり、スキンシップを図ったりして安心して過ごせるようにする。</li> <li>生 鉄棒や雲梯などは気温の下がる夕方には、手がかじかみ落下につながる可能性があるため、使用を避ける。</li> </ul>

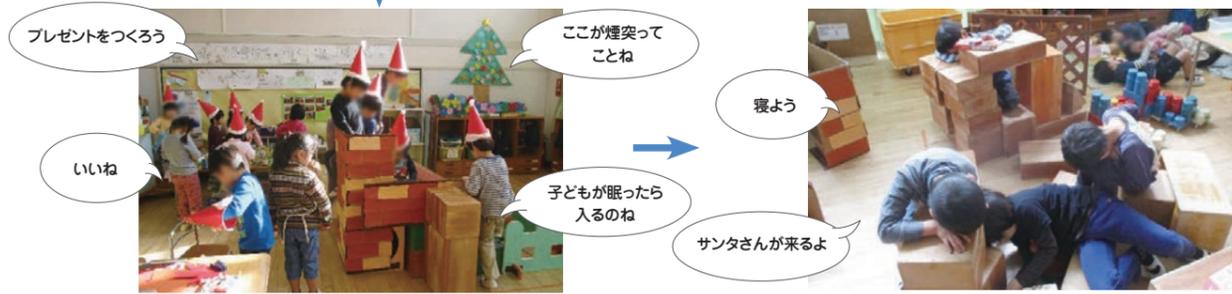
「〇〇ってことにしない?」「それがいいね」 人 友達とやり取りをし、伝わる楽しさを感じる

幼児が互いの動きや言葉を意識し、遊びのイメージが共通になったり、やり取りを楽しんだりできるように、環境や援助を工夫する。時には保育者も遊びのアイデアやイメージを出したり、幼児の経験の中が広がるような素材や用具を用意したりして、遊びが豊かになるようにする。



12月になり幼児の中でクリスマスの話題が出たことから「サンタクロースになりたい」と思い付いた幼児が「先生、サンタの帽子をつくりたいんだけど」と言いに来る。保育者は「サンタの帽子ね。何色?どんな形?」と幼児の思いを聞きながら、幼児のイメージに合うような赤色の紙や綿などを製作コーナーに用意する。

赤い紙と綿を使ってサンタクロースの帽子をつくり始める。見ただけでサンタの帽子を作っていることが他の幼児にも分かり、「ぼくもつくる」と、製作コーナーで同じようにつくり始める。「サンタさんはプレゼントを持ってくる」「プレゼントもつくりか」「サンタさんは煙突から入るんだよ」と帽子をつくりながら会話が弾む。



帽子ができあがると、サンタクロースになりきって、プレゼントをつくり、煙突をつくり、見立てが共有されていく。楽しそうな雰囲気を感じて製作コーナーで同じようにつくり始める幼児もいる。

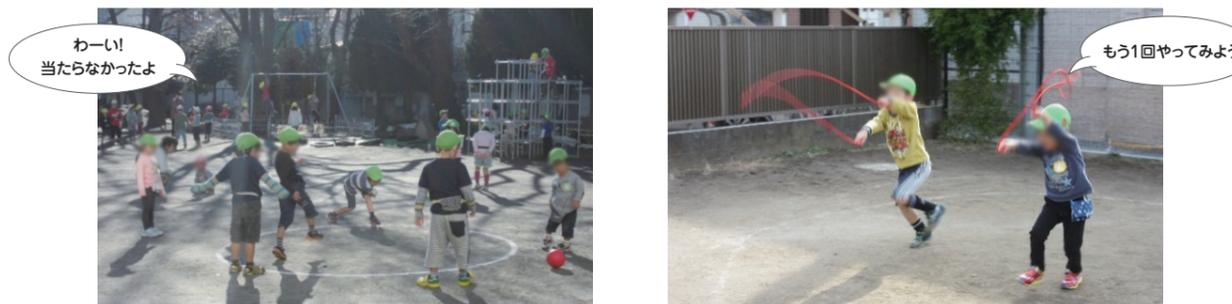
サンタになった幼児が「子どもが眠ったら煙突から入ろう」「プレゼントを置こう」というやり取りをしているの聞いて、他の遊びの場の幼児が「夜だから寝よう」と眠る振りをする。それを見たサンタの幼児はプレゼントを置きに行き、関わって遊びを楽しむ。

ようし! がんばるぞ! 生 運動的な遊びに興味をもち、自分からやってみようとする

寒さに向かう時期には、保育者が率先して戸外に出て行き、幼児が戸外で十分に体を動かして遊べるようにする。

仲間が増えると楽しい転がしドッジボールや鬼ごっこでは、人数に応じて伸び伸びと動けるスペースを確保する。

ルールを守ることによって遊びが楽しくなることに幼児が気付くよう保育者も仲間となって一緒に動きながら援助し、活動的な遊びを楽しめるようにしていく。



『ボールに当たったらコートから出る』という転がしドッジボールのルールは、4歳児に分かりやすく、数人の幼児で遊ぶことができる。「ボールが転がってくる」「当たらないぞ!」と言いながらボールをよけたり、ボールを捕って転がしたりするなどの動きを楽しむ。

「跳べた」「ぼくも跳べた」「何回跳べるかな」と自分なりに興味をもってなわ跳びに挑戦する。

学	ねらい	<p><b>学</b> 友達と互いに思いを伝えたり受け止めたりして一緒に遊ぶ楽しさを味わう。</p> <p><b>人</b> 学級のみんなでする活動に意欲的に取り組み、つながりや楽しさを味わう。</p> <p><b>生</b> 年長組になる喜びや期待感をもち、遊びや生活に自分からすすんで取り組む。</p>
	思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な材料を組み合わせて遊びに必要なものをつくりたり使ったりする。</li> <li>冬の自然や冬から春にかけての自然の変化に気づき、驚いたり不思議に思ったりする。</li> <li>コマ回しやすどろく、カルタに興味をもち、繰り返し楽しむ。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを友達に伝えたり、友達の話の聞いたりすることで遊びが楽しくなることを感じる。</li> </ul>
学	創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のやりたいことに向かって試したり工夫したりする楽しさを感じる。</li> <li>曲やリズムに合わせて楽器を鳴らすことを楽しむ。</li> <li>正月や節分、桃の節句の由来を知り、日本の伝統行事に親しむ。</li> </ul>
	協同	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と共通の目的をもって活動に取り組み、充実感を味わう。</li> <li>遊びや生活に必要なことを友達と一緒に行動する。</li> </ul>
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>小動物の世話などの仕事を年長児から教わり、感謝の気持ちや親しみを感じるとともに、自分たちが年長組になる期待感をもち、</li> </ul>
人	規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びや生活の中でルールやきまりの大切さに気付いて守ろうとする。</li> <li>一年間使った保育室や遊具を整理し、進級を楽しみにする。</li> </ul>
	自立した生活の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分でできることは自分でする。</li> </ul>
	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちよく食事をするために挨拶や姿勢などのマナーに気を付ける。</li> </ul>
生	運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>寒い中でも戸外で運動的な遊びを楽しみ、体を動かす心地よさを感じる。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<p><b>学</b> 言葉でやりとりをする姿を認め、友達の考えを聞いたり受け止めようとしたりすることで、遊びがより楽しくなっていくようにする。</p> <p><b>人</b> 鬼遊びや転がしドッジボールなどに繰り返し取り組み、遊びながらルールの大切さに気付くようにする。また、多様な動きや運動量を増やすための環境の工夫をする。(場の取り方や広さ・ボールの大きさ・硬さ・重さ・感触等)</p> <p><b>生</b> 5歳児と一緒にしてきたことや、してもらったことなどを思い出し、感謝の気持ちをもってお別れ会の準備に取り組み、自分たちの成長を感じられるようにする。</p> <p>5歳児に喜んでもらえるようなことについて幼児の思いや考えを引き出しながら、「自分たちがやれた」という充実感をもてるような方法で進めていく。</p> <p><b>学</b> 5歳児から当番活動や誕生会の司会を引き継ぐ活動を計画し、年長組になることに期待をもてるようにする。徐々に自分たちの力で活動や生活を進めていく経験を増やし、大きくなる自分を感じたり自信をもったりできるようにする。</p>
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児の一年間を振り返り、成長の喜びを共有する。時には自分の思い通りにいかない不安やつらさ等の葛藤を味わう経験の大切さや、肯定的な子どもへの接し方等について考えていく。</li> <li>子どもたちの進級に向けての活動の様子を伝え(当番引き継ぎ、お別れ会取り組み、修了式への参加等)保護者と一緒に進級に期待をもてるようにする。</li> </ul>	
長時間保育	内容	<p><b>学</b> 3歳児や5歳児と一緒に体を動かしたり関わったりして遊ぶことを楽しむ。</p> <p><b>生</b> おやつ準備などの5歳児が行ってきた仕事を自分たちもしようとする。</p>
	環境の構成・援助のポイント	<p><b>学</b> 3歳児や5歳児との関わりでは遊びの様子を見守り、必要に応じて仲立ちをし、互いの思いを感じ合っただけで遊べるようにする。</p> <p><b>生</b> 5歳児が行ってきたおやつ準備などの活動に目を向け、自分たちがやろうという気持ちをもてるようにする。</p> <p><b>学</b> 鉄棒や雲梯などは気温の下がる夕方には、手がかじかみ落下につながることもあるため、使用を避ける。</p>

やったあ! できたよ! **学** 興味をもったことに繰り返し取り組み楽しむ

日本の伝統的な行事や遊びに親しみながら、生活や遊びが豊かになるようにする。

**学** コマは、細いひもをコマのくぼみに巻き付けて引けば回る『糸引きコマ』を教材として選択し、4歳児が繰り返し楽しめるようにする。

**生** 自分のコマを大切に扱えるよう、個々の箱を用意して、ひもを巻いた状態で片付ければひもをなくさないことを伝えていく。



「鬼は外!福は内!」節分の由来を知り、豆まきをする。



「回った!回った!」コマを回せるようになる嬉しさを感じる。板や輪を設定することで、友達と同じ場面向き合い、コマ回しを楽しむようになる。



「こんなコースもつくったよ」コマがよく回るようになると中型積み木や板を組み合わせてコースをつくり、コマが進む様子を見たり試したりして楽しむ幼児もいる。

年長さんみたいに! **人** 年長組になることに喜びや期待感をもち

**人** 年長組がこれまで行ってきたモルモットの世話や誕生会の仕事を、5歳児に教わったり一緒に行ったりすることで、年長組に対して、より親しみを感じるとともに、自分たちが進級することに喜びや期待感をもちようとする。

**人** お別れ会に向かって、5歳児のためにできることを幼児の発想を生かしながら保育者と一緒に考えていく。「自分たちでできた」「友達と力を合わせてできた」という思いがもてるようにする。

**学** 個々の幼児が学級の中で力を発揮している実感ももてるように、保育者が幼児一人ひとりのよさを認めていく。

**モルモットの世話**  
4・5歳児と一緒に仕事をする。仕事の手順だけでなく、「モルモットはおなかの下をさうと持ってね」「モルモットが痛くないように」と5歳児がこれまで世話をしてきた経験から感じたことを、4歳児に伝える。4歳児は「ほんた。モルモットが嬉しそうにしている」「年長さんみたいにできるようにしたいな」と憧れの気持ちを強くする。



「ケージはこうやってお掃除するよ。モルモットがきれいになったって喜ぶよ」

**誕生会準備**  
「誕生会の言葉を一緒に言ってみようね」「大きな声で言えたね」5歳児に見守られることが自信につながる。5歳児に教わる。

**誕生会当日**  
「これから誕生会を始めます」と声を揃えて言う。4・5歳児と一緒に仕事を進め、「もうすぐ年長さん」という気持ちは強くなる。



**お別れ会準備**  
「わたし、ここを塗るね」「年長さん、きれいだなって喜ぶね」幼児の発想を生かし準備を進めていく。

ねらい	学	興味をもったことに自分から関わり、いろいろな遊びを楽しむ。
	人	友達や保育者との関わりを楽しみ、学級のつながりを感じる。
学	思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びや思い付いたことに合う素材や用具を選び、自分なりに工夫してつくることを楽しむ。</li> <li>春の自然を感じ、変化に気付いたり遊びに取り入れられたりして楽しむ。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者や友達に、自分の思いや考えを言葉で伝えようとする。</li> <li>身近な環境に関わり、感じたことや気付いたことを言葉で表現する。</li> </ul>
	創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい素材や遊具、場に慣れ、自分たちの遊びに取り入れていく。</li> <li>感じたことや考えたことをかいたりつくったりして表現することを楽しむ。</li> </ul>
人 人のかかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> <li>年長組になったことを喜び、友達と一緒に遊ぶ楽しさやつながりを感じる。</li> </ul>
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の気持ちを表したり、相手の気持ちに気付いたりする。</li> <li>年下の幼児と遊んだり世話をしたりして、親しみの気持ちや年長組になった喜びを感じる。</li> </ul>
	規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい環境の中で、友達と遊んだり生活したりしながら安全に心地よく過ごす。</li> </ul>
生 生活	自立した生活の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者と一緒に自分たちの生活の場を整えたり、生活の仕方を考えたりする。</li> <li>小動物や植物の世話などの当番活動を楽しみにし、張り切って取り組む。</li> </ul>
	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶や姿勢などの食事のマナーが分かり、友達と一緒に気持ちよく食事をする。</li> </ul>
	運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>戸外で十分に体を動かす心地よさや開放感を感じる。</li> <li>友達や保育者と一緒にルールのある遊びを楽しむ。</li> </ul>
環境の構成・援助のポイント	学	年長組になった喜びと新しい生活への緊張や不安な気持ちを受け止め、みんなで体を動かして遊んだり、砂や水、泥の感触を楽しんだりして、開放感を味わい、一人ひとりが安心して過ごせるようにする。
	学	興味をもった遊びにじっくり取り組めるよう、一人ひとりの思いを引き出したり、これまで経験したものだけでなく新しい素材や遊具を提示したりして、満足感をもてるようにする。
	学	身近な自然(春風・花や葉)を取り入れた遊びができる環境を用意し、春を感じながら遊びが豊かになるようにする。
	人	年下の幼児の世話などでは、張り切っている気持ちや優しく接しようとする気持ちを受け止め、自分でできた喜びを感じられるようにする。やり方や接し方が分からない姿が見られるときには、学級で話し合ったり考え合ったりして気付けるようにする。
	人	学級のつながりを感じたり、緊張した気持ちをほぐしたりできるよう、触れ合い遊びやゲーム、共同製作の機会を作る。
生	新しい遊具、用具、教材の置き場所や使い方、生活してみても困ったことを幼児と話し合ったり確認したりしながら、自分たちで気持ちよく遊びや生活を進められるようにする。	
生	憧れの年長ならではの仕事は、保育者と一緒に楽しみながら行っていく中で、自分たちで進めていきたいという気持ちを高めていく。	
家庭との連携	学	<ul style="list-style-type: none"> <li>年長組になって意欲的に生活する姿や、充実した遊びを中心とした園生活が小学校生活につながることを伝え、一年間の成長に期待がもてるようにする。</li> <li>朝型の生活リズムや生活の身辺自立の大切さについて家庭での様子や園の姿を基に話し合い、家庭と園で共に幼児の成長を支えられるようにする。</li> </ul>
	学	<ul style="list-style-type: none"> <li>好きな遊びを友達や保育者と関わりながら十分に楽しむ。</li> <li>年長児の自覚をもって年下の幼児に接する。</li> <li>新しい環境や生活に慣れ、自分からすすんで動く。</li> <li>休息の意味が分かり、静かに体を休める。</li> </ul>
長時間保育	学	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しい環境でも安心して自分たちの遊びを進められるよう、保育者も一緒に遊んだり見守ったりする。</li> <li>年下の幼児の世話をしたり、一緒に遊んだりできるように、保育者がモデルとなって動いたり関わり方に気付かせたりする。</li> <li>進級に伴う人的・物的環境の変化に配慮し、一人ひとりと信頼関係を築きながら、自分たちで生活を進めようとする意欲を育てていく。</li> <li>休息時は保育時間の違いから4歳児が先に長時間保育室で横になっていることが分かり、自分たちも静かに休息に入れるようにしていく。</li> </ul>
	学	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境の構成・援助のポイント</li> </ul>

年長さんだもん!

人 年長組になった喜びを感じる

1学期当初、新入園児の世話やこれまで慣れてきた5歳児ならではの仕事に張り切って取り組む姿を認め、年長児としての自覚につなげていく。  
進級の喜びと同時に緊張や不安もあるので、保育者も一緒に行ったり、活動の意味ややり方について学級のみんなで考えたりして、自分たちで進めていく嬉しさを感じられるようにする。



登園する新入園児と手をつなぎ、部屋まで案内する。持ち物の始末の仕方を教えよう  
「上着を自分で掛けられるかな」「この短いひもを持ってね」と3歳児に分かるように伝えようとする。3歳児が服を掛けると、「そうそう。できたね」と、一緒に喜び、年長としての自覚や喜びを感じる。



「お休み調べ終わりました。お休みはいいですね」「当番さんが調べてくれるから、今日配る手紙の数も、間違えずに済むわ。ありがとう」保育者とのやり取りで園の仕事自分たちで進める嬉しさも高まる。

大きいこいのぼりをつくろう

学 友達に自分の思いや考えを言葉で伝えようとする

伝統行事(端午の節句)の意味を知り、実物のこいのぼり飾りの大きさや美しさに感動して、「自分たちのこいのぼりをつくりたい」という気持ちを高めていく。  
うろこの「色」「形」などを自分たちで決めることを課題として投げ掛け、数人の友達と相談しながらつくる喜びを感じられるようにする。  
材料や色を数種類用意しておくことで、友達と相談して選択したり、自分の思いを言葉で伝えたり受け止められたりする嬉しさを感じて進められるようにする。



うろこはどんな形にする?  
こんな形はどう?  
いいね。そうしよう  
ここは何色がいいかな?  
ここは青にしよう  
そうだね。ぼくが塗るね  
私はピンクのところを塗るね  
きれいなこいのぼりになってきたね



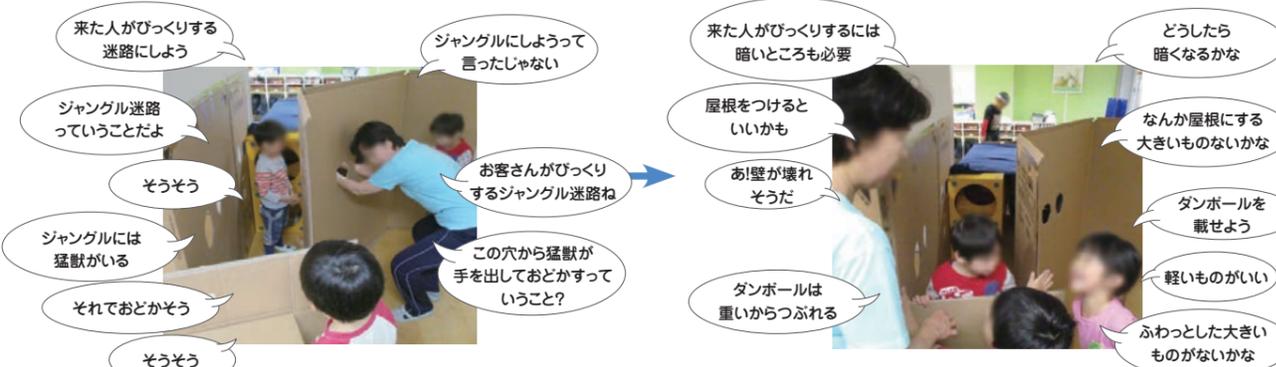
できあがったこいのぼりを掲げると、「やったー」「みんなで作ったこいのぼり、きれいだな」「気持ちよさそうに泳いでる」と友達と力を合わせてつくった実感や嬉しさを感じる。

ねらい	学	「こうしていこう」という自分のめあてをもち、考えたり試したりしながら遊ぶことを楽しむ。
	人	自分の思いや考えを言葉で伝えたり、相手の思いや考えを聞いたりして、友達とのつながりを感じながら遊びを進める。
	生	園生活の中で必要なことに気づき、自分たちで取り組もうとする。
学	思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近にある素材や材料、遊具の使い方を考え、遊びに生かそうとする。</li> <li>興味をもったことに繰り返し取り組み、自分たちで考えたり試したりする。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験したことや考えたことなどを相手に分かるように言葉で伝えようとする。</li> <li>生活や遊びの中で、友達の考えを聞こうとする。</li> </ul>
	創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌や楽器、踊りなどで、みんなの声や音、動きが合う心地よさを感じ、表現を楽しむ。</li> <li>遊びの中で感じたことや考えたことを表現し、イメージを膨らませたり変化させたりして楽しむ。</li> </ul>
人	協同	自分の思いを伝えたり相手に受け止められたりしながら友達と遊びを進めていく中で、遊びの目的を友達と共有する楽しさを感じる。
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分とは違う考えや思いに気づき、相手を受け入れようとする。</li> <li>遊びの中で相手の動きや言葉に応じたり答えたりしながら、相手の気持ちを感じる。</li> </ul>
	規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と遊び方を確認したり伝え合ったりして進めようとする。</li> <li>プール遊びの約束の意味や大切さに気づき、自分たちで確認したり伝え合ったりして守ろうとする。</li> </ul>
生	自立した生活の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>一日の生活の流れが分かり、意識して行動しようとする。</li> <li>手洗い、うがいや衣服の調節などの健康に必要なことが分かり、自分で気付いて行動する。</li> </ul>
	食育	夏野菜や草花の栽培を通して収穫の喜びを感じ、調理したり食べたりする。
	運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>鬼ごっこやリズム遊びなどの運動的な遊びに参加し、十分に体を動かして遊ぶ心地よさを感じる。</li> <li>プール遊びを通して、開放感や思い切り体を動かして遊ぶ充実感を味わう。</li> </ul>
環境の構成・援助のポイント	学	一人ひとりがじっくりと遊びに取り組めるように時間と場を十分に確保する。また、友達同士で刺激を受けながら互いのよさを取り入れ、遊びが面白くなるように場や環境を工夫する。
	学	幼児の発想や工夫を受け止めながら、一緒に必要な材料を探したり、用具の扱い方を考えたり、アイデアを出したりする。
	人	幼児同士の思いのぶつかり合いや葛藤を通して、自分の思いを言葉で伝えようとしたり相手の思いに気付いたりし、互いのつながりが深まっていくようにする。
	人	遠足や絵本の読み聞かせなど、学級の共通体験を遊びに再現したり、様々な表現を楽しんだりできるような環境を工夫し、友達と考えを出し合って一つのことに向かう楽しさを感じられるように見守ったり援助したりする。
生	一日の生活の流れや予定について学級で相談したり表示したりして、どの幼児も意識して行動できるようにする。	
家庭との連携		<ul style="list-style-type: none"> <li>水遊びの機会が増えることから、体調管理に配慮し、健康的な生活習慣が身に付くよう、家庭と連携を図る。</li> <li>幼児が思いを出し合って遊びを進める中で起きる友達同士のぶつかり合いや葛藤について、幼児期に経験することの大切さや育ちについて保護者に伝え、共に見守っていけるようにする。</li> </ul>

長時間保育	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 自分のやりたいことを見付け、じっくりと遊ぶ。</li> <li>生 長時間保育の生活の仕方が分かり、自分たちで生活の場を整える。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>生 長時間保育の生活の流れについて、意味ややり方を表示したり長時間保育児で話し合ったりして、幼児が見通しをもって自分から気付いて行動できるようにしていく。</li> <li>生 雨天時や全員保育の活動内容を考慮し、長時間保育の活動で動と静のバランスをとった過ごし方について配慮する。</li> </ul>

ジャングル迷路をつくろう 遊びの目的を友達と共有する楽しさを感じる

遠足や絵本の読み聞かせなどの学級のみならず、みんなで楽しんだ共通体験をきっかけに、幼児がイメージをもって遊び始める姿を大切に与える。  
 保育者も仲間の一員として遊びに関わりながら、イメージが膨らむ素材を用意したり言葉を掛けたりして、友達との関わりや環境との関わりを経験できるように援助していく。



保育者が言葉を加えながら幼児の発想を具体的な動きとして引き出し、友達に伝えるようにすることで、幼児のそれぞれの発想が共有されてくる。

幼児の発想や工夫を受け止めながら一緒に材料を探したり用具の扱い方を考えたり、アイデアを出したりして援助することで、幼児はめあてに向かっていくと試していく。



幼児はイメージに合う材料を見付け、屋根を付け始める。「本当に暗くなってきたな」「ちょっと怖いね」「いい感じ」と一緒に遊びの場をつくる喜びを感じる。

幼児は場をつくりながら更に遊びのイメージを膨らませる。「暗い迷路に猛獣がいたら驚くね」「この暗いところに入ってきたら、猛獣になってガオって言う」「いいね」「お客さんがびっくりするね」とジャングル迷路が実現できてきた喜びを感じる。

ジャガイモがいっぱいとれた! 栽培を通して収穫の喜びを感じる

4歳児3学期に植えたジャガイモの生長に興味をもって世話を続け、5歳児になって収穫をして調理し、みんなで食べる楽しさや、3・4歳児に振る舞う喜びを味わえるようにする。  
 収穫したジャガイモを並べたり測ったりして大きさや数、重さ等に興味や関心、感覚をもてるようにする。



ねらい	学	友達の言動を感じ取りながら、工夫して一緒に遊びを進める楽しさを味わう。
	人	園や学級のみんなですることが分かり、自分の力を出してやり遂げた満足感を味わう。
学び	思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な遊びに挑戦する気持ちを持ち、自分の力を出し切る心地よさを感じる。</li> <li>生活や遊びの中で文字や数、量、いろいろな図形に興味・関心をもつ。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の経験したことを学級のみんなの前で話したり、友達の話や学級のみんなと一緒に聞いたりする。</li> <li>経験したこと、感じたこと、考えたことを相手に分かるように言葉で伝える。</li> </ul>
	創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>経験したこと、感じたこと、考えたこと、イメージしたことを様々な方法で表現し、楽しむ。</li> <li>絵本や童話に親しみ、内容に興味をもったり想像したりする楽しさを感じる。</li> </ul>
人とのかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の思いを話したり友達の考えを聞いたりして、自分たちで遊びを進めていく。</li> <li>共通の目的に向かって、一緒に取り組む楽しさや気持ちを合わせる心地よさを感じる。</li> </ul>
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級の友達と一緒に遊びを進める中で、自分の力を発揮しようとする。</li> <li>友達のよさや力に気づき、助け合ったり競い合ったり応援し合ったりする。</li> <li>自分の身近な人(高齢者、年下の子ども、地域の人等)との関わりを通して、親しみや相手を思う気持ちをもつ。</li> </ul>
	規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活を進めるために当番などの仕事の意味が分かり、友達と一緒に役割を果たそうとする。</li> </ul>
生活	自立した生活の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>一日の生活の流れや数日間の予定が分かり、見通しをもって行動しようとする。</li> </ul>
	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>食事の大切さに気づき、様々な食材を食べてみようとする。</li> </ul>
	運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな運動的な遊びにすすんで取り組み、体を思い切り使って動く心地よさを味わう。</li> <li>遊びのルールを考えたり守ったりして、友達と一緒に運動的な遊びを楽しむ。</li> </ul>
環境の構成・援助のポイント	学	友達とめあてが共通になる楽しさを感じながら遊ぶ姿を見守っていく。友達に思いが伝わり、一緒に遊びを進めている気持ちももてるよう、時には一人ひとりの思いを引き出していく。
	人	自分たちの運動会という気持ちをもって必要な物を考えたり準備したりする姿を認め、学級のみんなで運動会を楽しみにしながら取り組めるようにする。一人ひとりの取組の姿を学級で認め合い、つながりを感じとらせながら、自信をもって自分の力を十分に発揮できるようにしていく。
	人	運動会の共通の目的に向かって、できた喜びやうまくいかない悔しさを受け止めながら、一人ひとりに応じた援助を工夫し、諦めずに最後まで取り組んだり、友達同士で励まし合ったりする姿を認めていく。
	生	<ul style="list-style-type: none"> <li>いろいろな運動的な遊びに自分から繰り返し取り組める環境や雰囲気を作り、十分に体を動かす心地よさを感じられるようにする。</li> <li>1日や週の流れをどの幼児にも意識できるよう、視覚的に分かりやすく表示をしたり、友達と確かめたり声を掛け合ったりして取り組んでいけるようにする。</li> </ul>
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>学級だよりや保護者会を通して、目的に向かって自分の力を発揮して取り組んでいる過程を伝え、子どもの成長を理解し、喜びを感じてもらえるようにする。また、体力の重要性を伝え、運動を園と家庭の両方で実施できるようにする。(幼児期の運動指針について保護者会などで繰り返し伝えていく)</li> </ul>	
長時間保育	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 やりたいことや自分の好きな場を見つけて遊ぶ中で、友達と関わりながら遊びを進める。</li> <li>人 3・4歳児に遊びを教えたり、頼られる嬉しさを感じたりする。</li> <li>生 身支度や片付けなど、身の回りのことを自分からすすんで行おうとする。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 自分のやりたい遊びをする中で、友達と関わるように保育者も一緒に遊びながら楽しさを感じられるようにしていく。</li> <li>人 異年齢児と一緒に遊ぶ嬉しさや楽しさを感じられるようにしていく。</li> <li>生 生活の場を整えることで気持ちよく過ごせることに気付かせていく。</li> <li>生 全員保育での運動量が増える時期なので、疲れや個々の体調を把握し、ゆっくりと過ごせるよう休息の時間や場を設定する。</li> </ul>

運動会をしよう!

人 共通の目的に向かって、一緒に取り組む楽しさを感じる

生 運動的な遊びに進んで取り組み、助け合ったり競い合ったりして楽しむ

学 行事は幼児の生活に変化と潤いをもたらすものであり、運動会に向けての取り組みは、幼児がこれまで経験してきた運動的な遊びや動きを基に、友達と一緒に主体的に取り組めるよう環境の構成を工夫していく。

生 生活の中で取り組まれている興味・関心の高い遊びやテーマを取り上げ、幼児が自然に参加したくなることを大切に、十分に体を動かす心地よさを感じられるようにする。

また、日頃はやっていない活動に取り組んでみたり、初めて体験する面白さに出会ったりする機会にしていこう。

人 運動会当日は、学級のみんなが見通しをもって準備をしたり参加したりできるように、大きなプログラムを用意したり、用具の置き方を工夫したりする。一人ひとりが、自分の役割に取り組んでいる姿を認め、自信をもって行動できるようにし、身体的な感覚を通して友達との一体感が高まるようにする。

人 運動会後はこれまでの取り組みを振り返り、協力できたことやがんばったことなどを学級のみんなで認め合い、達成感を味わえるようにする。



走る順番は決まった

よしがんばるぞ!

〇〇ちゃん! がんばれ!



生 運動会に向かって幼児が見通しをもって主体的に取り組めるように、役割表や運動会までのカレンダーなどの表示を工夫し、学級のみんなで進めていく喜びを共有する。

人 はじめの言葉や体操など、必要な仕事や役割に気づき、5歳児として自分から動いたり、学級のみんなで進めていく意欲をもったりすることができるようにする。

1学期から繰り返しリレーを楽しむことで、チームで競い合う面白さやルールが必要に気づき、自分たちで走るコースを準備したり、順番を決めたりして、ますます意欲的に取り組むようになる。諦めずに取り組む姿や友達同士で励まし合う姿も出てくる。



次はジャンプだ

運動会に向かって、グループごとに集まり、テーマに合った表現を考える。「ぐるっと回ってジャンプをしよう」「それで反対まわりしよう」相談がまとまると、音楽に乗って弾んで踊ります。



これから踊りをします

司会は運動会を進めていくための大切な仕事。友達と言葉を考えて、大勢の観客の前で声を合わせて言う。



2番目の綱を引っ張ろう

よう!

友達と力を合わせて綱を取る競技「つなとり」では、「どの綱にする?」「2番目の綱を引っ張ろう」と作戦を立て、張り切って取り組む。



フリー!フリー! 応援も頑張るぞ!

運動会に必要なものを自分たちでつくり、運動会に向けて意欲はますます高まる。

		<p><b>学</b> 共通の目的に向かい、互いに協力しながら考えたことを実現したり表現したりする楽しさを味わう。</p> <p><b>人</b> 友達と遊びを進めていく中で、自分の力を発揮したり友達のよさに気づき認め合ったりする。</p> <p><b>生</b> 生活に見通しをもち、友達と一緒に進めていく。</p>
<b>学</b> 学び	思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達の意見や考えに刺激を受け、自分なりに考えようとする。</li> <li>季節の変化に関心をもち、調べたり遊びに取り入れたりする。</li> <li>遊びに応じて、必要な表示を考えたり、文字や数字を取り入れたりする。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>理由を添えたり、新しい提案をしたりして、相手に分かるように考えや思いを言葉で伝え合う。</li> <li>生活の場に応じた言葉の使い方や表現の仕方を意識し、やりとりをしようとする。</li> </ul>
	創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現したいことを実現するために必要な材料や方法を選び、工夫してつくることを楽しむ。</li> <li>絵本や物語に親しみをもち、想像を豊かにして聞いたり表現したりする楽しさを味わう。</li> </ul>
<b>人</b> 人とのかわり	協同	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と共通の目的に向けて遊ぶ中で、一緒に進めていく楽しさや、やり遂げた達成感を味わう。</li> <li>友達と考えを出し合って工夫することで、遊びがより面白くなることを十分に味わう。</li> </ul>
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊びや生活の中で起こる様々な困難に対して、自分たちで解決したり乗り越えたりしようとする。</li> <li>自分の考えを伝えたり相手の立場に立って考えたり行動したりして、折り合いをつけながら進めようとする。</li> </ul>
	規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>やるべきことが分かり、自分で考えて行動する。</li> <li>交通ルールや公共のマナーを知り、気を付けて行動する。</li> </ul>
<b>生</b> 生活	自立した生活の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>園生活の流れに見通しをもち、時間を意識して友達と声を掛け合って行動する。</li> <li>共同で使う物や場を積極的に片付けようとする。</li> <li>健康な生活や病気の予防に関心をもち、意識して行動する。</li> </ul>
	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬野菜の栽培や収穫を通して、食べる喜びを感じる。</li> </ul>
	運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分のめあてをもち、いろいろな運動遊びに繰り返し挑戦する。</li> </ul>
<b>環境の構成・援助のポイント</b>		<p><b>学</b> 幼児が思いを伝え合ってイメージを共有し、具体物を扱ったり動いたりしながら、考えたことを実現できるようにする。また、幼児が自分たちで取り組んだという充実感を味わえるように、仲間と声を掛け合って実現したり表現したりすることを楽しむ姿を認めていく。</p> <p><b>人</b> 思いや考えの違いに気づき、友達と折り合いをつけながら遊びを進めていくことができるよう援助していく。</p> <p><b>生</b> 自分たちが遊んだ物の片付けだけでなく、テラスや園庭等全学年で共有している場所の片付けにも気づき、みんなのために役に立つことの大切さを感じられるようにしていく。</p> <p><b>生</b> 感染症予防、手洗い・うがいの大切さに気づかせ、幼児が必要感をもってすすんで行動できるようにする。</p> <p><b>生</b> 就学時健診や小学校の児童や教師との交流を通して、小学校生活を身近に感じ、憧れや期待感がもてるようにする。</p>
<b>家庭との連携</b>		<ul style="list-style-type: none"> <li>就学に向けて、園と家庭で連携して生活習慣を見直していく機会を作り、家庭でも意識して生活できるようにする。</li> <li>冬休みの過ごし方や正月遊びを家庭で楽しむことの意味を伝える。</li> </ul>
<b>長時間保育</b>	内容	<p><b>学</b> ルールや遊び方を考えながら、友達と一緒に思い切り体を動かして遊ぶことを楽しむ。</p> <p><b>生</b> 生活の仕方や流れを考え、見通しをもって行動する。</p> <p><b>生</b> 体調や気温、運動量に合わせて、自分で衣服を調整する。</p>
	環境の構成・援助のポイント	<p><b>生</b> 就学を見据えて、休息は静的な遊びをして過ごすようにする。幼児によっては横になれる環境を用意するが、家庭と連絡を取りながら徐々に横にならずに過ごせるよう生活リズムを整えていく。</p> <p><b>生</b> 感染症が流行しやすい時期であるため、衣服の調整や手洗い・うがいの大切さを伝え、自分から気づけるように声掛けをする。</p> <p><b>生</b> 朝保育・夕保育では、外気との温度差を考慮しながら室温調整をしたり、換気や湿度にも配慮したりして、健康に過ごせるようにする。</p>

**みんなで劇をつくろう 「エルマーのぼうけん」**  
(トラ役のグループの姿から)

**学** 物語に親しみ、想像を豊かにして表現する楽しさを味わう

**人** 共通の目的に向かって、自分の考えを伝えたり相手の立場に立って考えたりして進め、やり遂げた達成感を感じる

**学** 子ども会(劇的な表現遊び)に向けての取組では、日常の園生活の中で、たくさんの絵本や話に親しませ、想像の世界を楽しむ力を育てる。

**人** 一人ひとりの伸びやかな表現を認めて、演じることを喜ばしいと感じることや表現を互いに認め合う人間関係を育てることが大切である。

**学** 子どもたちが夢中になって聞いていた話を劇的な表現活動に取り上げることで、幼児はお話の世界をイメージしたり、言葉でやりとりしながら創造する面白さやみんなでつくり上げる楽しさを感じたりできるようになる。そして、幼児は自分なりの表現を認められ、十分に楽しむことで「誰かに見せたい」と意欲的になる。そのときに保育者は、見る側に伝わりやすい方法を提案したり、多様な道具や用具、素材を用意したりして、イメージの世界の表現を更に楽しめるように援助していく。

学級のみんでどんな劇にしたいか話し合う

先生の読んでくれたエルマーの話にしたら面白いです

トラの役になりたい幼児が集まり登場の場面を考える

草をつかって、そこに隠れよう

草の後ろから出たら面白いんじゃないかな?

それで、もっと強そうにしようよ隠れているとき、目をギョロッとさせよう

こんな感じは? ギョロ!

学級のみんで劇的な表現活動に取り組み、やり遂げる喜びを感じられるように、どんな話を劇にするかについて話し合い、「エルマーの冒険」を題材として取り上げることにした。友達と思いや考えを伝え合えるよう、同じ役の友達とグループを作り、活動に取り組み始める。

トラのグループの幼児がトラになりきって、ぐるぐると走っている。保育者が「すごいスピードね!トラはどうやって登場しますか?」と投げかけると幼児はいろいろな考えを出す。「草から出る」「そうだね。エルマーの本ではトラは草から出てたよね」「そしてくるっと回ってガオって言う」「じゃあ、トラが出てくる草をつくろうよ」イメージを実現するために、幼児の思いや動きを引き出すことで、幼児は劇に必要なものに気づき、つくり始める。

グループで考えた場面を学級のみんで見合い、学級の劇をよりよいものにしていく

トラの登場の仕方を考えたから見てください

どんな歌?

俺たちはトラ!ガオ!っていうのはどうかな

学級のみんで見合い、「この登場の仕方、いい考えだね」「トラがすごく強そうだね」とグループの表現の工夫に気付けるようにする。互いのよさを認め合い、劇づくりに学級のみんで取り組む楽しさを共有できるようにする。「もっと面白くしたい」「トラの歌もあつたらいい」という幼児の意欲を受け止め、保育者もアイデアを出していく。

保護者・地域の方に見守られての子ども会

子ども会では自分たちで考えた動きや言葉、歌などの表現に自信をもって取り組み、学級のみんなでやり遂げる満足感を味わった。

**学** 友達とイメージを共有し、演じる喜びを味わったり、大勢の人に見せる晴れがましさを表現する楽しさを味わったりできるようにする。

**人** 子ども会に向けての取組の中で、自己を発揮し、互いのよさや考えに触れ、折り合いをつけながら進める楽しさを感じられるようにする。

学	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 目標に向かって取り組み、繰り返し挑戦してやり遂げる喜びを味わう。</li> <li>人 就学への喜びや期待感をもち、すすんで行動しようとする。</li> <li>生 生活や遊びに見通しをもち、自分たちで進めていく充実感を味わう。</li> </ul>
	思考	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の目標に向かって諦めずに取り組み、やり遂げる喜びを味わう。</li> <li>生活や遊びに必要な文字や数字、標識などに興味や関心をもち、遊びの中に取り入れて使う。</li> </ul>
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊び方や役割分担などを相談しながら意欲的に遊びを進めていく。</li> <li>話している人に気持ちを向け、関心をもって話を聞く。</li> </ul>
学	創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬の自然物や自然事象に驚きや不思議さを感じ、遊びに取り入れたい調べたりする。</li> <li>友達と気持ちを合わせ、歌ったり合奏したりする心地よさを味わう。</li> <li>日本の伝統行事の意味が分かり、製作したり、参加したりする。</li> </ul>
	協同	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達とのつながりを感じながら取り組み、自分の力を発揮する。</li> <li>学級の友達と共通の目標や課題に向かって力を合わせてやり遂げる喜びを味わう。</li> </ul>
	信頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分や友達の得意な面やよさを生かし合いながら遊ぼうとする。</li> <li>小学生との交流活動を通して、小学校を身近に感じたり、小学生への憧れの気持ちや就学への期待感をもったりする。</li> <li>修了に向けた活動を通して自分の成長を感じ、周りの人への感謝の気持ちをもつ。</li> </ul>
人	規範	<ul style="list-style-type: none"> <li>今は何をすべきかを判断し、状況に応じた行動をしようとする。</li> <li>就学を意識して、交通ルールを守って行動する。</li> </ul>
	自立した生活の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活や遊びに必要なものを自分たちで準備したり片付けたりする。</li> <li>生活に見通しをもち、時間を意識しながら場や状況に応じて行動する。</li> </ul>
	食育	<ul style="list-style-type: none"> <li>食べ物を大切にすることが大切や用意してくれる人への感謝の気持ちをもって食べようとする。</li> </ul>
生	運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達と積極的に運動的な遊びに取り組み、自分の力を発揮する。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 自分の目標に向かって繰り返し、諦めずに取り組めるように、友達との励まし合いや認め合いの姿を認め、学級の友達との関わりの中で乗り越えていけるようにする。</li> <li>学 コマ回しでは、コマを回すコツをつかもうとする幼児・手乗せ回しなどの技を習得しようとする幼児・コマが回るときの色の变化を試行錯誤する幼児・友達と競うことを楽しむ幼児など、幼児の目標に応じた環境を用意する。</li> <li>学 日本の伝統文化に興味や関心をもったり、由来を知ったりする機会をもつ。絵本や音楽などの環境や雰囲気を通して、楽しみながら取り組めるようにする。</li> <li>人 互いに力を出しながら自分たちでやりたいと思った遊びを進めていく姿を認め、支えていく。友達や保育者に認められる体験を通し、どの幼児も自分のよさや特徴に気づき、自信をもって行動できるようにする。</li> <li>生 これまで楽しんだ運動的な遊びを、学級のみんなで伸び伸びと楽しめるよう、時間や機会を十分にとっていく。</li> </ul>
	家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者会で小学校の生活や学習について具体的に伝える機会(小学校校長や1年生担任を招いた保護者会の計画等)をもち、入学に向けて不安や疑問を解消できるようにする。</li> <li>1年間の幼児の成長を伝えて喜びを共有するとともに、保護者の協力に感謝の気持ちを伝えていく。</li> </ul>

長時間保育	内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>人 園での楽しかった遊びを繰り返し、自分の成長を感じながら就学への期待をもつ。</li> <li>生 友達や異年齢の幼児との関わりの中で、自分の力を十分に発揮しながら遊びや生活を進め、充実感を味わう。</li> </ul>
	環境の構成・援助のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>学 一人ひとりがやりたい遊びにじっくりと落ち着いて取り組める遊具や環境を設定する。また、友達と繰り返し楽しめる遊具(カルタやすごろく)も準備する。</li> <li>生 戸外で遊ぶ機会を作り、体を動かして遊ぶ楽しさを十分に味わえるようにする。</li> <li>生 自分たちで見通しをもって遊びや生活を進めていく姿を認め、就学への期待につなげる。</li> <li>生 園生活を振り返りながら、自分たちで過ごした長時間保育室の掃除や整理整頓を行えるようにする。</li> </ul>

一緒にやろう!

**学** 自分の目標に向かい繰り返し挑戦して取り組む文字や数字に興味をもち、遊びの中に取り入れていく

日本の伝統的な行事や遊びに親しみながら、生活や遊びが豊かになるようにする。

- 学 コマは『投げゴマ』を教材として選択し、5歳児が試したり工夫したりして繰り返し取り組めるようにする。また、新たな刺激とするために、様々なコマに触れられる環境を用意しておく。
- 学 コマ回しでは友達同士で教え合ったり、回せるようになったことを喜び合ったりできる、温かい学級の雰囲気を作っていく。
- 学 様々な大きさの板や輪を用意することで、同時に投げたり、狙って投げたりして競い合う楽しさを感じられるようにする。



投げゴマはひもを巻くのが難しく、繰り返し取り組む必要がある。「何度巻いてもひもがほどけちゃう」とがっかりしている友達に、「こうやってひもを持って、くるくる渦巻きだよ」とやって見せ、コツを伝えようとする。「回せるようになりたい」と意欲をもち、初めはうまくいかなくても諦めずに考えたり工夫したりしてできるようになるまで繰り返し挑戦し、達成感を味わうようになる。

コマが回せるようになると、「さあ、勝負だ!」とコマ回しを楽しみ、自信をもって取り組む。

「みんなで勝負!」「いち・にの・さん!」と一斉に回すことが楽しくなる。「回った!」「がんばれ!がんばれ!誰のコマが長く回るかな」とコマ回しの場に集い、友達同士で競い合ったり、いろいろな技に挑戦する姿も見られるようになる。



「ごさを敷いてカルタを並べて、さあ、始めよう」準備ができたからカルタ取りを楽しもう。「読むよ!」「でるとびっくり!」「あつた!」

- 学 既成のカルタだけでなく、自分たちで言葉を考えたり絵札をかいいたりしてカルタづくりにも取り組む。
- 人 カルタ取りでは「同時に取ったときには手が下にある人が絵札をもらえる」などの基本的なルールを守って競い合えるようにする。

いつもと違うなドキドキする!

**学** 日本の伝統行事の意味が分かり親しむ



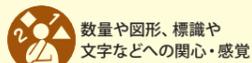
「お雛様を飾って、今日は嬉しいひなまつり!」「お菓子をいただいて」「お茶もいただきます!」いつもと違う雰囲気の中で日本の伝統文化に親しむ。地域の方の協力でお茶会や琴の演奏会をする園もある。



- 学 伝統行事の意味について由来を知り、親しみを感じたり雰囲気を楽しむことができるようにする。

子供の活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の、子供園修了時の具体的な姿の例

ドッジボールをしよう 友達と一緒にドッジボールをする中で、自分の力を発揮して遊ぶ充実感を味わう



数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

相談したり調整したりしてドッジボールの準備をする

「ドッジボールのコースの真ん中はこの辺かな」「ちょうどいい感じ」「大きさは同じくらいだ」と遊びの場を準備する。「そっちのチームの人が多いよ」「こっちが足りないから誰か入って」と声を掛け合いながら、チームの人数やコースの広さを同じにする必要性に気付く。



●これまでの遊びや生活の経験を生かし、自分たちで場を準備したり、人数調整に気付いたりする姿を見守る。



健康な心と体

ゲームが始まるとボールを投げたり、捕ったり、身をかわしたりする

ゲームが始まると、「投げろぞ!」「ボールが来るぞ!逃げろ!」と素早く動く。ボールを捕ったり相手の動きを見て投げたり、ボールをよけたりする。

●ボールを投げたり、捕ったり、よけたりする姿を取り上げ、互いの刺激としたり認め合ったりしながら、体を動かす楽しさを十分に味わえるようにする。



協同性

どうしたら勝てるか友達と話し合う

「作戦会議だ」「今度こそ負けないぞ」「ボールが来たら素早く捕らう」「分かった。バウンドしたらすぐに捕って、すぐ投げればいい」「そうだね」「それでき、みんなで固まっちゃだめ」「そうだね」「ばらばらに逃げた方が当たらないね」「ボールが来たらさっと逃げよう」とチームの友達と考えを出し合い、作戦を練る。嬉しさや悔しさを味わいながら、友達のよさに気付いたり一緒に取り組む楽しさを感じる。

作戦会議だ



●チームの友達同士で声を掛け合って行動する姿を認め、友達と一緒に楽しさや相手のよさを感じながら、満足感を味わえるようにする。

なぜ? どうして?

身近な自然に触れ、驚きや不思議さ、動植物への親しみや命の大切さを感じる



自然との関わり・生命尊重

園庭の氷を見付け、好奇心をもって触れたり集めたりする

「氷だ!」登園してきた幼児が見付けるとすぐに「見て見て!氷だよ」と友達に知らせる。「冷たいね」「ここに集めよう」「あ!割れた」「お日様に当たって溶けてきた」と触れたり集めたり溶ける様子を見つめたりする。



●園庭の様々なところにある自然(水や霜柱・虫などの生き物)に幼児が気付くよう、保育者自身が発見したり自然環境を整えたりしていくようにする。

虫を見付け、図鑑で調べたりタブレットパソコンを使って見たりする

園庭で遊んでいた幼児が虫を見付ける。「こんなところに虫がいる」「幼虫だ」「何の幼虫だろう」「図鑑を見てみよう」「飼いたいな」「何を食べるんだろう」と調べ始める。



●幼児が好奇心や探求心をもって考えたことを言葉で表現したり、身近な事象への関心を高めたりできるよう、ICTを効果的に活用する。



自立心

当番の仕事の必要性が分かり友達と進める

カブトムシの幼虫の世話を当番活動として取り組む。「今日は当番だから、先に世話をしてから遊ぼう」「カブトムシの幼虫のフンがいっぱい」「きれいにしたら幼虫が喜ぶね」と自分たちがしなければならないことを自覚し、友達と一緒に行動する。



●動植物との関わりを積み重ねる中で、生命の不思議さや尊さに気付く、命あるものとして大切に扱おうとする思いを育てていくようにする。  
●幼児が自分で考えて行動できるようゆとりをもった生活の流れに配慮し、主体的に生活を進めていく姿を見守っていく。

学校ごっこしよう! 1年生との交流活動をきっかけに

これまでの経験を生かして、遊びに必要なものをつくり、友達と進めていく楽しさを味わう



思考力の芽生え



友達と一緒に遊びに合う素材を考えたり工夫したりしながらつくる

1年生との交流活動をきっかけにランドセルづくりが盛んになる。「ランドセルをつくるんだ」「この厚紙がいいな」「かたい紙だからセロハンテープよりもガムテープだとよく付くよ」と、友達と気付いたことを伝え合いながらつくる。

- 遊びの実現に必要なものを自分たちで選択できるよう、素材や用具、つくり方に触れる体験を積み重ねておく。また、ものの性質や仕組みが分かる喜びを感じられるまで、じっくりと取り組めるようにする。
- 思いを伝え合ったり試行錯誤したりしながら一緒に活動を進めていく楽しさや共通の目的が実現する喜びを味わえるようにする。
- 幼児が自分の行動を振り返ったり、相手の立場に立って考えたりする姿を見守っていく。
- 折り合いをつけることができたときには共に喜び、難しいときには保育者も間に入り、幼児と共に解決法を考えていく。



言葉による伝え合い



交流活動の経験から学校ごっこに必要なものを相談して用意する

「これは黒板ね」「先生が字を書くことね」「ノートもできたよ」「黒板の字をノートに書くてことね」と学校ごっこに必要なものをつくりながら、どう遊ぶのかを言葉で伝えながら進めていく。



道徳性・規範意識の芽生え



意見が違ってトラブルになっても話し合い解決していく

「わたしは〜がいいな」「わたしは□□がいいの」「○○にしてみるのはどう?」と学校ごっこを進める中でいざこざなどうまくいかないことも起きる。相手の気持ちに共感したり、自分の行動を振り返ったりして、仲良く遊ぶために調整する。

いいのができた! 子ども会に来てください

心を動かす出来事などに触れ、感じたことや考えたことを表現したり、友達と表現する過程を楽しんだりする



豊かな感性と表現

劇の役に合った話し方や動き方を工夫したり、衣装や道具をつくったりして豊かに表現する

グループの友達とこれまでの経験を生かしながら考えを出し合い、工夫して劇づくりに取り組む。役に合った話し方や動き方を工夫したり、劇に必要な衣装や道具を身近な素材や用具を使ってつくり上げたり、効果音を考えたりするなどして表現することを楽しむ。友達と一緒に工夫することで、新たな考えを生み出し、より多様に表現できるようになる過程を楽しむ。



- 多様な素材や用具に触れることで、イメージやアイデアが生まれるような環境を整え、一人ひとりの幼児が豊かに表現する楽しさを味わえるようにする。
- 幼児同士が表現を工夫しながら取り組む姿やそれぞれの表現を互いに認め合い、取り入れられたり新たな表現を考えたりする姿を十分に認め、さらなる意欲につなげていくようにする。



社会生活との関わり

保護者や地域の方に見に来てもらい親しみを感じる

友達と一緒に劇をつくらった劇を「誰かに見せたい」という幼児の思いを大切に、保護者や地域の方に見に来ていただく。



●地域の身近な人と触れ合えるような活動を計画し、地域とのつながりや親しみ、自分が見守られている安心感を感じられるようにする。

遊びを通して学ぶ幼児教育から教科などの学習を中心に学ぶ小学校教育へ円滑に接続するために、「杉並区幼保小接続期カリキュラム・連携プログラム」に基づき、保育者と小学校教員の連携・幼児と児童の交流活動・小学校の人・もの・ことに関わる体験・保護者への理解啓発を、子供園では積極的に進めています。

## 保育者と小学校教員の連携 連絡会や合同研修会等を通して保育者と小学校教員が連携を図る

- 双方の教育内容や指導方法等を理解する。
  - ・保育参観や授業参観など、実際の幼児・児童の姿を見ることを通して話し合う。
  - ・連絡会・合同研修などの開催趣旨を明確にして継続的に実施できるよう計画を立て、相互の教育内容や指導方法などの違いや共通点、よさについて話し合う。
- 幼保小連携の推進体制を組織する。
  - ・幼保小連携の必要性について共通理解を図り、教育課程に位置付けて年間計画を立案する。



## 幼児と児童の交流活動 小学生との交流活動を通して小学校を身近に感じ、就学を楽しみにする

第2学年1学期の生活科授業(校庭でザリガニを釣ろう)に5歳児が参加し、小学生に親しみを感じたり、生き物に興味・関心をもったりする。



第1学年3学期生活科授業(ようこそ小学校へ)に5歳児が参加し、授業体験を通して就学への不安を減らし、小学校生活への憧れや期待感を高める。



## 小学校の人・もの・ことに関わる体験 小学校の施設や行事を活用し、小学校生活への期待や憧れを膨らませる

小学校の図書室で学校司書と手遊びをしたり読み聞かせを聞いたりする『ワクワク図書館』や広い校庭で小学生と同じ場で消防自動車をかく『働く自動車写真会』等、幼児が小学校教員と関わったり、行事に参加したりすることで、小学校の雰囲気に慣れ、小学校生活への期待を膨らませる。



ワクワク図書館



働く自動車写真会

## 保護者への理解啓発 小学校入学に向けた保護者の意識を高め、家庭教育の一層の充実を図る

保護者会や園だよりなどを通して、充実した園生活が小学校の生活や学習の基盤になることを保護者に伝え、幼児の育ちや家庭での関わり方などについて、保護者が気付いたり考えたりできるようにする。

また、就学に向けて保護者の感じている不安や疑問を軽減し、小学校生活に見通しをもてるようにするために、小学校の校長や1年生の担任、小学生保護者を招いての保護者会を計画する。



子供園では、特別な配慮を必要とする幼児を各学級に2名程度受け入れています。指導にあたっては、集団の中で生活することを通して、全体的な発達を促していくことに配慮しています。幼児の発達の特徴を尊重し、生活しやすくなるよう支援すると同時に、他の幼児と関わり、共に育つ喜びを味わえるように環境や援助を工夫しています。学級担任は他の保育者や介助員と話し合いを重ね、対象幼児の特性を理解し、適切な対応方法について工夫を図っています。

また、保護者の苦労や悩み、不安や焦りを理解して受け止め、共に子どもの成長を支えていく姿勢をもって、保護者との信頼関係を築くことを大切にしています。5歳児後半には、就学支援シート「すばるⅡ」を活用して、家庭と連携し、就学につなげていきます。

## 一人ひとりの特性を理解し、すべての幼児にとって生活しやすい環境を整えたり援助を工夫したりする

### 見通しをもって生活するための工夫

『みんなが座ったら紙芝居が始まる』というような生活の流れを一定にし、幼児が自分から楽しみにして座れるようにする。「きちんと座ってえらいな」「よい姿勢です」と声を掛け、何をしたらよいかを幼児に伝わるようにする。



### 感覚や運動機能の発達に合わせた遊びの選択

保育者は幼児の感覚や運動機能の発達を理解し、視聴覚やバランス感覚などの基礎的な感覚を育てながら、全身運動を取り入れていく。幼児期に体をよく使って遊ぶことは、すべての幼児にとって大切なことである。



### 人の話を聞く態度を育てるための工夫

保育者の話の内容は、一度に多くのことを伝えすぎず、情報量を減らし幼児が理解しやすいようにする。

手遊びをして注目を集めたり、言葉遊びなどを取り入れたりして保育者の声を聞き取る力を育てる。聞くだけでは理解が難しい場合には、絵や写真、文字を効果的に取り入れる。



円形に座るときには、「丸いお皿みたいに座ります」などと、これからすることを誰にでもイメージできるような言葉で声を掛ける。



### 特性に応じた環境の工夫

一つのテーブルで数名が身支度をするとき、他の幼児との距離感がつかめずに困っている幼児には「ここが自分の場所」と分かるシートを準備する。身支度の手順を絵や文字でシートに示し、安心して自分のことができるようにする。

衝動をコントロールすることが難しい幼児には、保育室の一角や保育室から近い所にスペースを設定し、そこに行けば『落ち着ける』『気持ちを切り替えられる』という体験を積み重ねられるようにし、落ち着いた気持ちで学級の遊びや生活に取り組みできるようにする。



ここで示した、特別な配慮を必要とする幼児への指導内容や指導方法の工夫は保育実践の一例です。子供園では幼児同士が関わりを深め、一人ひとりがかけがえのない存在として大切にされる温かな学級の雰囲気の中で、教育・保育を進めることを大切に考えています。



## 杉並区立子供園 育成プログラム

編集・発行：杉並区立済美教育センター  
〒166-0013 杉並区堀ノ内二丁目5番26号  
TEL (03) 3311-0021

杉並区のホームページでご覧になれます。

<http://www.city.suginami.tokyo.jp>

登録印刷物番号

29-0072

平成30年1月発行